

相濟まぬ事だ、其と共に在郷軍人會なるものには何か一つの特色といふものが無いればならない。他に比して此の特色のあるといふことが第一の要件であるが、然らば此の特色とは全體何を意味するかと云へば、これは地方々々で多少の相異はあるが、共通的に申述べるなら、第一人間の節度がなくて兎角不規律な生活をするのが日本人の一大缺點である。此不規律を矯正する事に就ては、種々の方法手段もあらうが、在郷軍人會として、殊に注意すべきは、時間の勵行といふ事である。

時間の勵行は古くから人の云ふ事で、何人も耳に章魚の出来る程聞いたり言ふたりする所ではあるが、併しなかく日本に於ては行はれ難いことである。若しも之が行はれぬやうでは、とても不規律なる生活は矯正される望みはない、國を富強ならしむる上に於て、一家の産を興す上に於て、又自ら修養する上に於て、生活を規律正しくすることが最も大切な要件である。時間勵行といふ言句は古くはあるが諸君は之を新しい言葉だと心得られ、之に向つて規律正しくして行くことが大切である。在郷軍人

會なるものは『場當り』や『新機』を考へてはならぬ。終始一貫事業が行はれて行くのを以て會の誇りとなし、諄々として威容を崩さぬ所に甘味がある。全體物といふ者は一絡ぐたに多情多慾にやつて行かうとしては、寧ろ一つとして成功するものではない所謂二兎を逐ふ者は一兎をも獲ずで、一の望を立てたらそれを成就する迄始終精勵しなければならぬ。時間の勵行も相互に申合せた當時は行はれても、中途にして挫折するやうなことは在郷軍人會としては其自負心を傷ける點に於て最も忌む所であるからごんな困難があつても貫徹するといふ意氣込みでやる必要がある。此件の如きは官公吏は固より、殊に教育家と相談を遂げられたならば、學校教育、青年團には當然勵行しなければならぬことであるから、勵行上に一しほ便宜を得られることであらう。而して夫れが適切であると考へる。

尙ほ又かの『奉公袋』の實行が、近來大分行はれて來て之れを各分會のみならず、地方にも實行せらるゝやうになつて來たのは誠に慶賀すべき次第である。此事も亦分

會長 諸君は宜いか惡いかを考究せられて、宜いと思はれたら直ぐさま實行せられなければならぬ。今日に至るも何等の消息も無い所があるがこれは如何なる故であらうか、役員諸君にも相談し又地方の官公吏教育家の方々にも相談つて見られて、愈々同意を得られたら全員を集めて是非之れを實行することにして貰ひたい。奉公袋の如きは始めは實行に骨が折れるかも知れぬが、實行した経験者の話しによると、其後は全員が大いに趣味を有ち、貯金も殖え一般の冗費を省くことにもなり、延いて一家繁榮の基であるやうにも考へて来る。それを實行するに大した困難もなく、費澤をするといふことを考へさへしなければ、譯なく出来るもので而してこの精神が即ち軍人精神となるのである。況して其意義が奉公袋又は動員袋の名の下に實行されることになれば、即ち軍人精神の發揚ともなるのである。其故實行してゐない所は是非實行された

い。
要するに分會長並に役員諸君を始め一般に分會の内容の充實を圖り効果を揚げん

とせば、強き意氣込と熱心とが必要となる。而して表面を飾るとか術ふるとかいふことは最も唾棄すべく、誠實にして眞面目な考を以て努力することが一番だ。而して右に述べた事柄を實行される上には、組織の上にて「五人組」(戰友班)を作るといふことが、其を實行するに適切なることで部分部分に纏めて全體に及ぼすといふ方針が一番適當である。私は信じて居る。宜いと信じたならば何處までも貫徹するといふ堅確な意思が無ければならぬ。又其れなくしては人が認めて呉れぬ。又地方改良の中堅にならうといふ事は思もよらぬ。私が今日の状態を憚らず言ふならば、他の振り合ひがあるから分會の名があり、而してその分會は何もして居らぬから實效は一として擧つて居ない、従つて會員の結束も出来て居ないし、協同一致の何たるをも了解されて居らぬ。さういふ分會は決して尠くないのである。私がかく直言するのは、分會の惡口を申さうといふのでは決してない、私の言ふこの記事を一度讀まれたら、實際の事情に照らしてよく考へて貰ひさへすれば、私が惡口を言ふのではないことがお判にな

るであらう。諸君から私の言ふ所が間違つて居る、吾々はもつと宜く出來して居るとお叱言を受けるやうなら、私は此上もなき有難きお叱言であると思つて國家の爲に欣喜するのである。

在郷軍人諸君に告ぐ

諸君は曾て御大典の際圖らずも、陛下より御親閱を賜はり優渥なる御勅語を拜し且つ特別なる御下賜金を恭なうせられたが、實に吾々は諸君と共に、感激措く所を知らざる次第である。而して陛下より斯の如き有難き思召を拜すると共に、益々吾々の責任の重いことを互ひに深く自覺しなければならぬと思ふ。

今や歐州戦争は未だ酣にして、此戦争をしてゐる國々は、今如何なる状態であるかと云ふと、各國民共その體力、能力、財力の最善を盡して争ふて居る。そふして將來吾々が一朝國難に遭遇したる場合にも矢張り斯の如き有様であると考へねばならぬ。

ぬ。

嘗に二十七八年或は三十七八年に於ける戦争の経験のみにてはいけない、是から先きの戦争は、嘗に軍人のみが戦争をするばかりでなく、國民一般が、大元帥御統率の下にあつて戦ふといふ氣風を有たなければ、到底敵に打ち勝つことは出來ないのであるといふことは何人も覺悟致さねばならぬ。茲に一例を擧げてみれば、吾々の敵たる獨逸國の人口は我日本の人口よりも少いのである。而してその半數が男子とすれば老幼合せて三千二三百萬に過ぎない。然るに今日戰鬪に従事して居る兵力はどの位かと申すと師團に編成されて居るものが百六十師團、是だけの兵を使つて居るが、更に戦争の初めから今日に至るまで、獨逸國民にして戦争に参加し得るものを統計すると、精確には分らぬけれども、少くも一千萬人以上に達して居る。而してその死傷はさういふと、四百萬以上もある。即ち日本より少い人口の國が、今日迄に既に一千万以上の兵力を使用して居る。而してこの一千万の中には現役、豫後備は勿論のこと、更に戦

在郷軍人諸君に告ぐ

一九九

争開始より今日迄未丁年の青年若くは已に兵役を終りたる人々が志願して戦場に出たのが、少くともその半數はあると考へなければならぬ。而して是だけの多數の者が戦争に従事して居るに拘はらず、國の内部の状況はと言ふと、少しも動搖をしないのである。又英吉利の如き、平時は外國に出征する軍隊は六個師團しかない國であるが、今日は殆んど八十師團の兵を動かしてゐる。又佛蘭西の如きは、その人口三千六百餘萬しかない國であるが、今日は實に百三十師團ばかりの兵を動かしてゐる。而して日露戦争の日本軍は二十五萬に過ぎなかつたのである。諸君は實に思ひ半ばに過る感があるだらう。斯くの如き状態であるから未來の戦争といふものは、誰吾々が強いばかりではいけない。而して國民の強いと云ふことは如何なる意味であるかといふに、身體強壯にして意氣剛健に、忠君愛國の大義を本領として、義務心に富み且つ協同規律服従の三大徳義を重んじ進取的氣象を備へたるものが即ち強いので所謂良民である。此の如き觀念の下に養成せられたる國民は獨り軍隊として強いばかりでなく、是が即

ち其國の工業の發達する所以である。是が爲に商業が發展するのである。是が爲に農業が發展するのである。更に又是が爲に學問も進歩するのである。我敵國たる獨逸國は如何にして此の如く強いのであるか、多年一日の如く努力して國民の體力を旺盛ならしめ、國民の意氣を興奮させ協同心を涵養し國民の勉強心を促し、又國民が規律を重んじて、自己の生業、自分の勤務に精勵した結果である。而して國民にその素地を與へ亦之を涵養した者は、何であるかと問へば、獨逸人は皆徴兵令の賜物である、即ち軍隊教育の賜物であると答へて何人も疑を挾むものはないのである。而して徴兵令の効果を國民に押し及ぼす媒介は何であるか、取りも直さず在郷軍人である。即ち諸君である。大正五年十一月 陛下より賜はつた御勅語の趣旨又昨年の 御勅語に朕が倚信に副へよと仰になつた、恐多くも斯う云ふ御言葉が出たのも、今日の歐羅巴交戦國の状況を御觀察遊され深くも御軫念遊された結果と拜察する。而して百八十萬の在郷軍人會員諸君は今後如何にして叡慮を安じ奉り御倚信に副ふ様にせらるゝか諸君

は益々軍務に従事しては最良の軍人となり國民としては儀表的良民となり國民の道徳も地方の改良も、産業の發展も諸君の努力に因り向上進歩し現實に諸君が我帝國の富國強兵の淵源たることを自覺して臍を固めらるゝといふことが即ち陛下の御趣旨に適ふ所以であらうと信じます。どうか諸君深く聖旨の存する所を、能く御了解下さつて御勅語の御趣旨に適ふやう互いに相勵まなければならぬ。

要するに將來諸君の責任は益々重くなるものと覺悟しなければならぬ。殊に諸君が能く考へなければならぬのは今日の戦争である。獨逸は疾風迅雷のやうな勢で、吾々の協同國なる英吉利、佛蘭西、露西亞、伊太利其の他の國を漸次壓迫せる狀況が見えた。戦争としては今日獨逸は餘程優勢の地位に居るのである。然し他日この優勢なる獨逸の頭を抑へるものは何れの國であらうか。即ち吾々が抑えなければならぬのである。若し彼を抑へることが出来なかつたならば吾々は彼等の膝下に頭を下げなければならぬ。吾々は飽く迄も獨逸の膝下に頭を下げることは出来ない、必ず彼に勝たな

ければならぬ。而して之に勝つにはどうするか、之に對する所存は云はずして諸君の胸中に明でありませう。是即ち天皇陛下の御軫念遊さるゝ所以と拜察し奉る次第である。天皇陛下は諸君に御依頼になつて、益々日本の國運の隆盛であることを、固く御信じ遊ばしておいでになる。此處が即ち吾々の臍を固めなければならぬ處である。吾々の精神を一般の國民に押し及ぼさなければならぬ所である。これが在郷軍人會員の重大な責任であり吾々の本分である。どうか諸君は能く此意を體せられて、益分會の爲に御盡力あらむ事を切望に堪えぬ。

殊に大正五年十一月に賜はつた御勅語の中に我が在郷軍人會の「其ノ健在ヲ嘉ブ」といふ御言葉があるが、實に恐れ入つた次第で、陛下には在郷軍人を以て日本將來の運命に大關係があるとの思召から夙夜其の郷關に於ける有様を御軫念あらせられたがその健全なることを知り給ひて深く御満足遊された御叡慮の發露であると恐察し奉るのである。我々軍人はこんな辱ないお言葉に接して何と心得てよからうか、恐れ乍ら

在郷軍人諸君に告ぐ

陛下が在郷軍人を如何にたよりに遊ばすかは、大正五年の十一月の勅語を拜誦すれば自ら明かなる事で、實に何とも申し様のない畏多い敬慮である。

されば我在郷軍人はこゝに益々感奮してこの聖恩に御答へせねばならぬ。今日歐洲の狀態を稽へて見ても、敵國たる獨逸が彼のやうに強い所以は、一に平素から總ての事業が發展して居るからの事ではあるが、此の發展を促した多くの原因の中には、在郷軍人の力といふものが主なる一であることを忘れてはならぬ。況んや世界に超越したる國體を有する我日本國は、在郷軍人たるものが能く各自の本分を顧み、在郷軍人が國家の隆替に重大なる關係ある所以を會得して層一層其心懸けを勵まして行くといふことが大切である。斯く考へ來れば諸君の責任は將來益々重大なることが了解されることと思ふ。

今や分會は既に輪廓も出來あがつた、形も出來上つて居るが、内容は果して充實して居るであらうか。名實とも相叶うて居るといふことが出來るであらうか。是に就て先づ諸君に注意を促したい、獨り在郷軍人ばかりでない、今日一般の日本國民として最も注意して貰ひたいのは所謂協同心の養成といふことである。此心が總ての點に進歩發達を促す基になる。然るに、協同心の缺乏は日本總ての事柄を阻害して居る、國の威力から云ふても、生産上からいふても、國民に協同心が無いのが一番日本の弱點であるから、此弱點を癒すといふ事に關しては、言ふまでもなく在郷軍人諸君が率先して従事すべきである。

是れ故に在郷軍人諸君は、何事に限らず、此協同心といふ觀念を先に立て、所謂公共の爲には自己の利害を棄て、分會の内部を充實せしめる爲には、自分の利害は甘んじて犠牲にするといふ獻身的至誠を發露して實に在郷軍人は協同心の權化であるといはれるやうにし、町村も亦在郷軍人會が健在する爲に、總ての協同心が行はれて行くといふ事になるやうでなければ、内容が充實したとも亦在郷軍人會が會としての面目を保持して居るとも云ふことは出來ないのである。

此際協同心は猶之れを地方の青年に押し及ぼして彼等が總てのこゝを終始同心から割り出して行くといふやうに指導するのが最も緊要な責務である。在郷軍人諸君は地方青年團體に對しては團友と云ふ位置に立つて、何はさて措き、此等青年に對しては極めて親切に何時にても在郷軍人を頼みにすれば間違ひないと彼等が氣強く思ふやうに仕向けなければならぬ。

茲に、諸君が吳々も誤解されてならぬことは、地方青年を指導教養するのは、所謂「軍事教育」を施すといふことではないと云ふことである。青年教養の目的は軍人にしようとするのではなくして、良い國民を作らう、健全豪邁なる而かも徳義心の強烈なものを作らうと云ふのが根本目的であるから意思の強い、體力の強健な、徳義心の確固たる青年が出來上りさへすれば、其れで充分である。斯くあつてこそ始めて良兵良民の實が上がり國家の將來を安心して委かすことが出來るのである。豈に夫れ獨り軍人を作らんが爲のみならんやである。

おたづねに答ふ

(併せて所感を述ぶ)

曾て山形市の在郷軍人會員の一人が手紙を以て私の意見を問はれた事がある。如此は熱心の餘りに出づるものであるから私は左の様に答へた。今私がその人に對して考へを述べて答へた事といふのは次の如くである。

貯金に就て御たづねの一は、奉公袋内の貯金は在郷軍人がいざ鎌倉といふ場合に、家族の路頭に迷はぬやう準備し置くといふ趣意であらうが、それならば裕福者は貯金するの必要はなく貧困者のみに適用すれば宜ではないかといふこと、今一つは、若も貯金の目的が冗費を節して貯蓄を爲し勤儉の美風を涵養して國民の好模範たるべしといふのであらうか、それならば、金額に最少限の額を設くるの必要はないではないかとの御たづねである。が、それは餘りに窮窟な解釋である。私共が奉公袋中に貯金

を爲せよと云ふのは、御たづねの兩方の目的を含んで居るのであつて、別々に引き離して考へる必要はない。有事の際に家族の路頭に迷はぬ爲の準備の意味もあり、勤儉の美風を涵養するの意味もあるのである。従つて貧困者は勿論富裕の者も矢張りこの貯金の必要はある。元來富裕の者が金のあるに任せて贅澤華美の風をするのは世の中に非常の害をするものであるから、富裕者はその地位財産の向上増加すればする程、益々勤儉の實を擧げて世人に好模範を示さねばならぬ。この心懸けの大切なことは貧富共に同じである。既に前記兩方の目的を含むとする以上は、金額に一定の制定を置くことの必要がある。即ち召集の時直ちに家計に困るといふことのない程度が即ち最少限度である。是等の心懸けは在郷軍人として最も大切なことであるから、是を窮窟に考へ、狹義に解釋し、強ひて理屈を附會して本旨を誤ることのないやうに希望する。要は實行を擧ぐるにあることなれば、何卒此意味に於いて御努力をお願ひしたい。有勳者などが處刑を受けたり、年金を抵當に借金して取返しのかぬ悲境に陥るが

如き者は憫然の至りであるから、之が豫防策はさうすればよいかとの御尋ねであるが是は吾々も常に憂慮して居る所である。その筋の調査によれば恩給年金を抵當にして金貸業者の手に取られてゐる者は非常に多數で、しかも年を逐ふて増加して居るやうであるが、これ等の者を助けて、悲境に陥らしめぬやうにするのは分會の將に務むべき處ではないか、會員は一つの戦友である。その戦友の眞の情誼はこの點まで踏み込んで打ち明けて互いに相談をして、扶け合ふまでにならねばならぬ。この親密の情誼が缺けて居るから、間違ひが起るのである。

若し、勳章や年金を有する者に對して、以上述べたやうな事柄まで國家が保護せざるべからざるに至つてはそれは實に際限のないことで、國家としては誠に迷惑であらう、即ち勳章や年金を與へた上に、更に其保持に就ての保護まで爲さなければならぬことは、國家に對して餘りに過度の要求と云はねばならぬ故に各自の名譽特典は、各自に於て能く之を保持して決して之を汚さぬやうに注意すべきである。言ひ換へれば

各自の名譽特典の保持は、各自の節制に待つべきものである。有勳者が刑罰に觸れたら、恩給年金が金貸業者の犠牲になつたりする場合は、多くはその本人の罪であるから、それは本人自ら省みて改むるのが順當である。世間の冷酷を怨むのは多くの場合寧ろ見當違ひである。中には世間の事理に暗いために悲境に沈むものもあらうが、それは會員同志に於て互いに助け合ふやうにしなければならぬ。こゝが分會の最も價値のある點であることを能く承知せられたいのである。某氏の書面に依れば山形縣下に於ける在郷軍人の處刑を受けたる者大正五年に於て百三十名、六年度に於て百三十八名に上りたりとの事なるが、これは遺憾千萬なことで、之を滅せしむるやう努力するのは分會の仕事である。一段の御骨折りを御願ひ致したい。

吾人が今日に於て最も寒心に堪えないのは露國の狀況である。露國は段々獨逸の爲に利用され、吾々の敵國たる獨逸の手は西比利亞まで延て敵は近所まで侵入して居るのである。然るに一般の國民は兎角、何時國難に遭遇するかも知れぬと云ふ覺悟を有

する者が少く、動もすれば安逸を貪らんとする傾向あるは遺憾である。我々は決して國難の來らんことを望むものではなく、戰を好むものではないが、しかし國家の自衛上餘儀なく武器を執つて起たねばならぬことが起らぬとは云へない。それには第一に軍人が緊張したる考を持たねばならぬ。隨て在郷軍人が先づその覺悟を引きしめ、一般國民に先んじて用意する所がなくてはならぬ。それに就て特に一言したきは我國の食糧に就てある。將來の戰爭は日清日露の兩役とは違ひ、實に世界の強國大國を相手に最後まで勝敗を争はねばならぬ。日本が若し今日の獨逸のやうな境遇に立つと假定して考れば日本は實に食糧に就て大なる困難に逢ふのである。米の如きも假りに三百萬の軍隊を動かすとするれば、一年足らずして米の缺乏を訴ふるのである。假令一滴の酒を造らぬとしても一年後には猶不足である。獨逸が一千二百萬の兵力を召集して三年半も健闘しつゝあるに比して我は三百萬の兵を以て、一年にて米すら不足するのである。此一事を考へても、國民は大に發奮して生産——殊に農作物の増加を計ら

ねばならぬことを痛切に感ぜらるゝであらう。而してこれと同時に大に粗食に耐ゆるの習慣を養はねばならぬことを會得せらるゝであらう。これが實に急務であると信ずる。歐洲戦争の起りし當時獨逸のゴルツ元帥は全國青年に檄を發し、此戦争は永びく青年は美食してはならぬ、粗食に耐ゆる習慣をつけよ、暖衣飽食は獨逸國民の禁物であるとの意味を以て戒めたが、誠にその通りであつて、これ獨り獨逸の青年に必要なばかりでなく、我國民にとりては更に一層その必要があるのである。

今や火の手は次第に近きつゝある。警鐘の聲に醒めざる者は、類焼の外はない。在郷軍人諸君は警鐘となつて國民の夢を醒さねばならぬ。これ實に諸君が身分に伴ふ當然の責務である。又諸君は諸君自ら覺醒するのみならず、諸君の子弟中に青年團員があるであらうから、それ等を能く誘掖して、國民の中堅たる在郷軍人の子弟は、又實に青年團中の優秀分子であるといふ事になりたいと思ふ。

右述ぶるが如く、國家の將來は益々多事多難であつて總ての方面に努力を要するところが多い。殊に食糧問題は大事中の大事で、自給自足の計を立つる事は刻下の急務である。こゝに於て在郷軍人諸君の發奮努力を切に熱望する次第である。

神社と在郷軍人分會

私は神社と在郷軍人分會との關係に就て所見を述べ諸君の御同意を得たいと思ふ。是まで各地方に於ける氏神の祭禮などの世話は、主として青年團即ち從來の「若連中」の仕事として行はれて來た所が多いやうであるが、青年團に關する内務文部兩省の訓令に依れば青年團員の年齢が二十歳までと限られた結果、これ迄通り神社の祭禮を青年團が引き受けて行ふことは、餘りに負擔が過重であつて困るといふ實際問題が起りはせぬか。現在の青年團は、猶ほ舊來の組織のものも多からうからして、今現に右やうの問題が起つて居るかどうかは、知らぬけれども、各地の青年團が漸次新組織に改めらるゝに伴ふて、早晚必ずや追々と實際に起つて來ることと思ふ。

我が日本國民が神を崇め敬うのは、祖先を崇め敬うて其の恩徳を謝するといふ考から來たので、これは實に我日本國民に特有なる敬神の思想である。此事は壯丁讀本にも説いて置いたことであるが、この敬神の思想は日本人の總てが有つて居るし、また有たねばならぬものであると思ふ。佛教を信仰したり、耶蘇教を信仰したるものは各人の自由であるが、それが爲に日本固有の神を敬ふことを忘れてはならぬ。茲に神といふ觀念は茫漠たる假想的のものではなく、祖先といふ實在的のもので、神を崇むるは即ち祖先を崇むると同じ考である。果して然らば恰も日本人である以上は、世界に儔なき特殊の國體より湧き出でたる敬神の念は、當然必ず之を有たねばならぬ筈である。從來青年團に於て神社の祭禮の事を受け持つて居たのは、青年の腦裡に、日本人固有の敬神思想を深く刻み込み、強烈なる忠君愛國の大精神を養はしむる上に於て極めて適切なる事であつた。然るに若し青年團に於て、二十歳以下の青年のみにては氏神の世話が行届き兼るといふ事になれば、如何すればよいか、言ふまでもなく、在

郷軍人分會が青年團に代つて専らその世話をするのが最も適當なことであらう分會の年中行事の一として、神社のことはなるだけ分會が擔任し、祭禮の時などは分會員が會旗を押立て、神輿の伴をするやうにしたならば、地方一般の敬神の念を鼓舞するにも多大の効果があらうし、又在郷軍人會の趣旨を普及せしむる上にも至大の便宜となるであらう、若し事情が許すならば、村社の社掌なども、分會員中の相當の者を選定して之に當らしむるやうにしたならば、更に一段の好都合であらう。斯くして分會の會合や入退營の送迎の如きも、出来るだけ神社の境内でやるやうにすれば、從つて敬神の念を深くし、延いて郷土を愛するの精神を養ひ、會員間の團結も自ら固くなり村内との親睦も加はり、分會の基礎も愈々鞏固となるの結果を見るであらうと思ふ。併し斯く言へばとて、神社の事は總て絶體に分會だけで行ふべしと云ふ意味ではない。一體此の事に限らず、分會が何か仕事をする場合には、地方官公吏の方々に相談して其指導援助を仰ぎ、其他町村の人々の協力を受けねばならぬことは申すまでもな

いことであり、又青年會とも協力せねばならぬことは勿論であるが、たゞ大體に於て神社の世話には分會が主として之に當るといふ立てまへにしたならば宜しからうと思ふ。

昔源頼朝が天下を平定して覇府を鎌倉に創めた時、戦亂に乗じ一時鋤鋤を棄てて兵馬の事に馳せ加はつた多くの農家の子弟達を、各自の郷里に安堵せしむる方便として八幡様を祀らするやうにし、其神社に右の農家の子弟を附屬せしめ、此の附屬の團體を指して「若連中」と呼んだのであると聞いて居るが、果してさうであるならば當時の若連中は取りも直さず一度戦亂に馳せ加つた所謂在郷軍人である。その在郷軍人の仲間が郷土の神社に附屬せしめられて居たと言ふのであるから、神社と在郷軍人の關係は洵に深いものであると云はねばならぬ。此等の點からしても在郷軍人は進んで神社の世話に任すべき理由があるではないか。のみならず、分會は兎も角も組織的に成り立つて居るから纏りも能く、仕事も能く運ぶであらうと思はれる。併しなが

ら、各地には又それ／＼事情もあることなれば、一概に律することは勿論出来ないが分會員諸君は上來述べ來りたる趣旨をよく咀嚼されて、篤と攻究されんことを切望する次第である。

青年の體力と在郷軍人諸君の責務

近來日本青年の體力が大體に於て漸次衰耗の兆候を顯して居る。醫術上の技能が進歩したからと云ふて、體育の事業が發達しなかつたならば、辛うじて世の中に生存して行くと云ふことにはなるであらうけれど、世の爲に役に立つ體力旺盛の人間となることは出来ない。

現に日本青年の體力が近來如何に衰耗の兆候を顯はして居るかを證據立てるには、先づ左に掲ぐる表を觀られたら判るであらう

年次	検査人員	短尺	病尺
明治四十二年	四五三、一四一	五六、四九三	七〇、二五三
同 四十三年	四三二、四二八	五一、七〇一	七〇、五二九
同 四十四年	四〇五、〇九九	四六、九一二	六一、〇三三
大正元年	四五一、一八〇	五一、九一四	七一、七二九
同 二年	四四三、七八七	四九、七〇五	七九、三七〇

壯丁體重累計比較表

年 度	體 量
明治四十二年	一四貫百十九匁
同 四十三年	一四貫八十六匁
同 四十四年	一四貫八十二匁

大正元年及二年を通じて 一四貫二十七匁

備考 本表は陸軍戸山學校の調査にかゝる。

右の表を見ても今日の青年の筋骨が次第に薄弱に陥りつゝあることが納得される。未來に國の運命を負擔すべき青年の體力が衰耗に傾くと云ふ是果して何の兆ぞ。軍隊の事に關して申せば、近頃は、少しく演習が實戰的であつて勞働が劇しいと直ぐさま病人が出来る。而もその演習たるや今日の在郷軍人諸君の現役當時の演習と較べると吾々は實に優しい殆んどお話しならぬ演習であると思ふて居る。然るに昔の演習には病人が出ず、今日の演習には直ちに病人が出来るといふのは誠に奇怪な現象ではあるまいか。之れを世間の人々は、演習が餘り烈しいからだと思ふて居るけれど、其れは大なる考へ違ひで、決してさう云ふ譯でなく、青年の體力が昔の者よりも劣つて居る適確な證明である。體力が衰ふれば従つて氣力も弱り根氣も薄くなる。又單り軍事上の事のみならず、所謂體力の強健といふことは、即ち其人の意氣精神

青年の體力と在郷軍人諸君の責務

の剛健たる基であつて、體力が旺盛であれば従つて其人の意氣も剛健になり且つ自信力も強健になり、腦力も増進するといふことになる。即ち體力は其の一面に於て國家發展の基礎となり従つて何よりも最も大切な事柄である。如何に智育が發達しても體力が其れに伴はなければ、個人としても既に其成功は覺束ない。又此れを國家として見れば所謂文弱者流のみが多くなつて終に國家が衰へて來る、人が文弱となれば國家も亦文弱になる事は極めて讀み易き數であるからである。されば、學問に依て文明人たり得るといふことは過去の夢にして今日の時勢に適するものではない。即ち所謂過去の文明は必ずしも國家を發展し國威を宣揚するの實に副ふものでないと云ふ結論に到着する。論より證據世界第一の文明なる人民、文明の國と稱へられた佛蘭西今日の狀態は如何であるか、現在に此生たる證據を見て何人も反對の餘地はないであらう。文明の中毒も亦恐るべきではないか、而して日本は青年の體力年と共に衰へるのが實に憂慮に堪えぬ次第である。

そこで何は置いて、一番大切な事は體育であるから、在郷軍人諸君も亦この間に自己の軍人精神を鍛錬し軍事知識を増進すると共に、一面には青年の體力を旺盛ならしむるの手段を講じ、熱心に此事業に協力するのは總て日本の軍隊を強くする所以ともなり、又一面には青年の體育事業が發達すれば國家に貢獻することも亦極めて偉大であらうし、又公共事業として、之れより上の貴い公共事業は無い。即ち在郷軍人の公共事業に力を盡す所以は實に茲に存するのである。

此事業は何れの方面にも偏して居ないものであるから、行政官も教育者も軍人も地方の有志者就中青年の父兄も和衷協同し圓滿に意思を疎通することが是れ亦大切である。此圓滿なる協同に關しても亦在郷軍人諸君が進んで骨を折らなければならぬ。又獨り青年のみならず、在郷軍人諸君自身も年齢を重ねるに従ふて多少體力が衰退することは己むを得ぬ次第であるが、しかし、近來諸君の體力の衰へ方が昔に比べると著しいやうに思はれる。

青年の體育事業と共に在郷軍人諸君自らも體力の保持といふことに勤めなければならぬ。諸君の體力如何は國軍の戰鬥力に至大の關係を有して居ることは言ふまでもなく、獨り諸君の體力の衰亡が國軍の強弱に關係するばかりで無く、個人としては最愛なる妻子の休戚に關係することである。夫れ故諸君は自分の體力を保持する注意を忽にしないことが是れ亦大切なことである。而して青年の體育事業に在郷軍人が協力するといふことは一面自分達の體力を保持する助けとなる譯ではあるまいか。

體力の衰ふると共に思想が薄弱になり意氣沈衰して安佚を貪り遂に道義の觀念が青年の頭から取り去らるゝやうになり、日本人が自慢する數千年來道傳の氣魄は漸次衰頹する。されば、青年の體育を旺んにして此氣魄を培養することゝ彼等が文弱に流るることを防いで其代りに強健なる意氣を吹き込むことゝは在郷軍人諸君の夢寢にも忽にしてならぬ所であると考へる。

強健なる體力、剛健なる氣力、旺盛なる性根、これが今日獨逸の強い所以で、原因

は實に茲に存するのである。獨逸は開戦以來今日に至るまで殆んど九百萬の生靈が戰鬥に従事して居る。同國の人口は約七千萬弱であるから男子の數は三千五百萬ばかりである。其中で九百萬以上も戦ひに従事して今日に至るまで敵をして一步も國境内に踏み込ませず否却つて進んで敵國內に勇戦し、弱き塊國を支援して益々攻勢を取るのである。此強味は抑々何處から湧き出たか、又工業農業等も平時から發展して居るからこそ諸強國を向ふに廻はして健闘し得るのである。獨り彼の軍隊のみならず、國民の意氣、農業工業の獨立等は悉く體力といふことから生れて居る。獨逸人の體力の一例を挙げれば、體育専門の教師が百二十萬、内六十萬は既に戰場に出て居る、以て體力基礎の觀念が如何に理想的であるか其努力の如何に熱心であるかを判るであらう。獨逸は今日吾々の敵である。されば吾々は如何なる場合に於ても彼を向へ廻はして之れに打勝たなければならぬ。さて打勝つに就ては國の將來の威力といふものを彼の威力の上に置かねばならぬ。其れが爲には體力に於ても徹頭徹尾彼を壓倒する必要が

ある。今日の如き體力が漸次衰頽の兆候を示すやうなことで、何でその大使命が果たされるか、之れを觀ても吾々の國家に對する責任が如何に重大なるか、自覺されるであらう。

特に考慮を要する重要問題

在郷軍人分會の役員を軍隊の階級に依つて定むべきや否やといふことに就て私が見て見を述べて見やうと思ふ。これは甚だ重大なる大問題であつて、且つ誤解を招き易い事であるから、諸君に能く諒解されるやう私の所見を披瀝しやう、此問題に就て先づ第一に了解せねばならぬことは、在郷軍人會なるものは國民の集團といふことである。即ち兵役の義務を負ふた所の國民の集團であつて、軍隊ではないのである。此の事を先づ會得せねばならぬ。身分は軍人であるけれども在郷中は即ち地方の國民である。現役中は軍隊を組織して居るけれども在郷中は然ではない。即ち法規上より論ずれば

陸軍刑法は一般の場合在郷軍人に對しては制服着用中に限り適用せられ、陸軍懲罰令も同様に陸軍々人の身分を表彰し得べき服装を爲す場合に限り適用せらるゝ所を見て、在郷軍人と軍隊に在る軍人とは大に事情を異にして居ることが分る。又在郷軍人會に於ける役員と會員との關係は、軍隊に於ける長官と部下との關係に比し大いに趣を異にするもので、即ち軍人會の役員は所謂其の會の世話役で、會員は役員の下下ではない。従つて役員は軍隊に於ける長官の如く、必ずしも高級古參者たるを要せぬことは明かである。然しながら、我々の特に注意を要することは、近頃在郷軍人會としては其性質上、全然階級觀念を去らねばならぬといふが如き論者があるが、之は軍人の徳義心を見無視し、所謂軍人氣質の尊重すべきことを辨へぬ謬見で、苟くも軍人である以上は、階級を重んぜず之を見無視するといふ如きことの不條理なるは茲に喋々することを要せぬのである。軍人としての階級は、陛下の御定めになつたもので、神聖犯すべからざるものである、又國軍建設の根本を爲すもので誠に貴いものであるが、此

の階級なるものは軍人に賜はりしもので、而してその階級は、軍隊に於て秩序を規正する所謂軍紀の元素をなすものである。而してこの階級なるものは、一般國民に向つて秩序服従を規正すべきものでない。この事を考へねばならぬ。この軍人としての階級は、軍隊と云ふものを組織するときには極めて厳正に之を守らねばならぬものである。此の階級を絶對的に國民の間にまで推し及して行くべきものではないのである。徴兵令なるものは貴族や富豪乃至は勞働者も、國民は皆平等に兵役の義務を負担するのが本旨である。而して是等のものが國民として社會に如何様の地歩勢力を有するも軍隊に入つた以上は此の階級制度によりて極めて嚴格なる命令服従の關係が此間に行はれねばならぬのである。その間に寸毫の用赦もないけれども、この階級を國民の間に推し及ぼして、在郷中に於ても猶其地方に於ける地位名望等を無視して飽くまで軍人の階級を以て律せんとすることはまた是を容さぬのである。軍隊に對する軍人としての階級を云爲する場合と然らざる場合とを區別して考へなければならぬ。獨逸

などでは此の點に就ては深き注意を拂ふて居る。其一例を云ふと獨逸では在郷軍人は大抵軍服を所持して居るが、併し軍服を着用すべき場合を制限して居る。それは無暗に軍服を着用すれば茲に軍人の階級と國民間の關係とが混同し動もすれば感情の疎隔が生ずるからである。即ち軍隊に於ける軍人の階級に相當する權利と國民としての權利と衝突することを避けしむる意味に出たのである。これ獨逸の在郷軍人會は長い歴史があり、種々の實際問題に遭遇した結果が斯様な制度を生むたものと見える。日本に於ても此點は極めて深い注意を拂はれて、規約に階級によりて分會長を定めず推選に依ることとしたのは右に述べ來つた趣旨に出たのである。のみならず、元來在郷軍人會は自治的の成り立ちであるから、多年其土地に住ひ、所謂その土地生え抜きの人で地位のある人が分會長にならるゝのが、會員の結束折り合ひもよく従つて發達するのである。これ日本ばかりでなく、何れの國も皆其趣を同じくする所である。さりながら我國在郷軍人會の特色として他に誇るべき點は、在郷軍人諸君が餘り理屈

に走らず、徳義の觀念厚くして、事實止むを得ざる事情の存在せざる限りは上級者を推選せらるゝ慣例であるから、極く少數の箇所を除くの外は分會長は階級的に就任されて居るのであつて、是は誠に結構なる事として我々も大に希望する所である。兎に角在郷軍人は一面國民であると共に其身分は軍人であるのだから、推選の結果が軍人の階級と一致するより善い事はない。即ち推選された人は、その町村に於ける最高級者であつたといふことが最も理想的である。けれども之は決して強制すべきことではない。強制するといふことになるも根本の意義に議論が起るのである。これは全く我々軍人の徳義の問題であつて、要は相互間に協同精神の破れぬやうにすることが最も大切である。若も地方の事情に依り、軍人の階級下位なる人々の分會長たることが分會の爲適當なりとして、下級者を推選するときは、上級者には分會に於ける他の名譽の地位を與へて優遇する方法もあるであらう。これ等は相互の徳義的相談の上で圓滿に協定すべきものである。實際上級者であれば大抵折り合はつくものである。又

上級者は上級者ほど協同心の涵養に就ては一層深き注意を拂ふべきは勿論、推選の結果は當然最上級者其選に當るといふやうに衆望の中心たればならぬことと思ふ。上來述べ來りたる趣旨によつて、本會の規約では強ち階級制度に依らず推選の方法に依つたのであるが、併し其代りに簡閱點呼、勤務演習等荷も軍隊として行動し、陸海軍法律の下に軍人として取り扱はるゝ場合は絶體に階級を守るべきは申すまでもない、それ故に下級者が分會長となられた所は、其人は又軍人の規律を重じて飽迄上級者の號令の下に動ねばならぬ。即ち此の場合は純然たる軍人として取り扱はるゝのであるから、軍服を着用せると否にかかはらず、絶體に階級制度を遵守せねばならぬ。これ軍人精神を磨き徳義を重んずる所以である。要するに斯様な道理を區別して考へ、公明正大を旨とし、此間一點の感情を挟むべきものでない。かくして始めて我々國軍人の光輝を放ち、在郷軍人會の眞價を發揚するのである。

是に伴ふて述べて置かねばならぬことは、今日在郷軍人諸君が、平生何かの時に軍

特に考慮を要する重要問題

服を着用するの趣旨は、軍隊といふ意味の軍服でなく、軍籍にある國民が自分の嗜として、又一般人士と違ひ、身は在郷軍人であることを表示する意味に於て着用するのである。分會員悉く軍服を着用したとて直ちに之を軍隊と見做すべきものではない。號令をかけて引率する場合でも嚴格なる意味に於ける軍隊ではない。詰り今日軍服を奨励するのは、軍人としての平生のたしなみとして精神的に必要なのである。恰も古の武士が常に鎧の用意を忘れなかつたのと同じ意味である。又一方から云へば在郷軍人の全部が軍服を有することは、國家有事の際に國軍の動員上實に甚大なる貢獻を爲すものである。故に退營するときは務めて軍服を調製して歸り、或は在郷中と雖も他の費を節約して常に軍服を用意して置くことを精神的にも物質的にも希望する所以である。

要するに分會役員に關する階級問題は畢竟德義の問題であつて、在郷軍人相互の間には階級順序に行けばそれが一番好都合であるけれども、地方に於ては事情に依り必ず階級順序に行かぬ場合があるから、斯る場合には階級論で推し通すよりも適當の便法を講ずるの必要がある。この機會に諸君の御注意を乞ひたきは分會長諸君と郡長村長乃至小學校長方との關係である。假令ば其人が如何に階級官等が上位であつても地方に在つては一の郡民村民として郡長村長の施設に服すべきものである。此場合は決して軍人の階級や官等を云ふべき筋のものではない。分會長と地方官吏乃至教育家と意思の疎通を缺くといふ場合に、其原因を研究すれば大抵はこの關係から生ずる感情の行き違ひが多いやうである。諸君はこの點を諒解せられ、進んで調協を求むるやうに務めて貰ひたい。之が寧ろ軍人の美點である。今後青年團とは一層緊密に提携せねばならぬ國情に於て特にその邊の御了解を切望する。

次に申述べねばならぬ大問題は本會を法令の下に置かんとする諸君の御希望である。私は在郷軍人會設立の最初から法令の下に置くことは、本會を發達せしむる所以下でない。精神的の結合が堅くなり、會員互いに諒解し、地方側からも諒解され認め

らるゝには、法令の下に置くは得策でない。初めから法令の方に依りて餘儀なくせらるゝのでは到底充分なる發達は望まれない、と今日迄も考へて居つたのである。實際各國の例を見ても初めから法令で出來たものは發展せず、これ法令に絶つて自ら努力することが少いからである。之に反して軍人が自覺して設けられた會は、それだけ精神が緊張して居るから發達も堅實である。前者の例は塊太利で、後者の例は獨逸である。それ故に今日迄本會を法令の下に置かず互いに相勵んで來たのである。然るに今日では諸君の努力に依りて會員相互の結束は勿論、地方官民も之を認め、他に類例なき皇室の恩遇を受くる迄に發展し、國家は在郷軍人會を保護すべしといふ聲が、求めずして起り來つた位であるから、今日は最早諸君の御意見を諒とすべき時節が到來したと考へる。如斯く本會は一方に於ては皇室の殊遇を辱ふし、一方に於ては國庫補助の必要を軍人以外の人々から、帝國議會にまで提唱さるゝやうになつたのは、諸君の熱誠なる御努力の結果であるが、斯くまで重く見らるゝに至つたのは非常の光榮である。

あると共に、其責任がまた非常に重大となつたことを自覺されねばならぬ。其邊は地方官公吏側から見ても、地方人士側から見ても、在郷軍人全體が、此國家非常の時機に際會して如何なる覺悟あるかを認め得る様に十分各町村の分會長と懇談を遂げられ、一入發展の途を講せられんことを切望する。

地方人士に代つて隊長諸君に訴ふ

私はこゝに、地方の人々に代つて大に隊長諸君に訴へねばならぬ事がある。而して深く諸君の御一考を煩さねばならぬ事がある。

訴へねばならぬことは近來滿期兵の傾向に就てである。近來軍隊教育を受けた者は一體に眞面目で歸郷者に自墮落な者がなく、歸來爲す事もなくして、徒らに日を送るやうな事もなく直ちに正業に就く様になつたのは著しき事實である。以前は軍隊から歸つた者は放縱、亂暴、傲慢で『兵隊上り』と云へば一體に世人から厭はれた時代

もあつたが、それ等の時代に比ぶれば雲泥の差で、軍隊教育は國民教育の一部であるといふことの意味が年と共に實現されて來たのは何人も認むる所である。これ等は隊長諸君の御骨折りの結果で、深く感謝しなければならぬ所である。此の事は地方の人人も能く認めて居る所であるが、さて茲に一つ甚だ遺憾に堪へぬ事として地方の人々から私に聞かされたことがある。そのことを私は地方の人々に代つて隊長諸君に訴へんとするのである。曰く、

壯丁が軍隊に行くとき往々人前を飾り表面を装ふといふ風になる。これまで表裏のない正直であつた人も軍隊に入つて二年なり三年なりの教育を受けて歸郷すると動もすれば人前を體裁よく繕ふといふ風になる。而して『要領』を得るといふ言葉を覺えて歸りて之を青年の間にまでも流行させる。此の言葉の意味は誠心誠意を以て事に當るといふのでなく、只一場の表面を體裁よく繕ふのであつて、甚だ好ましからぬ言葉である。この風が地方に流行し、青年にまで感染するやうなことがあつて

は誠に憂ふべきことである。苟くも軍隊教育を受けたものが、入隊以前知らなかつた惡風を覺え、この不誠實なる惡風を地方に流行させるといふことは誠に遺憾千萬である。

以上の如き不満の聲を地方に於て聞くことが屢々である。これは如何にも心外の至りで苟くも良兵良民を造り上げて郷里に歸さねばならぬ軍隊に於て右の如き不誠實なる惡風の媒介者を出す如きは容易ならぬことで、不満の聲の起るのも決して無理でない。何事にも誠心を以てし世に立ち人に交るには信義を第一とすべきことは恐れ乍ら勅諭にも御示しになり軍隊教育の本旨もこゝにある筈であるのに其軍隊教育を受けた滿期者に以上の如き惡風があるとすれば局に當る者は特に大に省みる所がなければならぬ。是は是非共隊長諸君の深き御反省を煩さねばならぬことであり且つ教育上の參考材料と思ふ。

次に隊長諸君に訴へねばならぬ事は、壯丁が徵兵に合格をしていよく入營すると

地方人士に代つて隊長諸君に訴ふ

いふときには、各自の身分地位に應じて、それ相應の服装で入營する。これは至極可い事であるが、唯茲に一つ不可思議に堪へないことは、除隊の時に華美の風を見ることである。初めは身分相應の質素なる服装で入營した者が、満期除隊の時に入營當時の服装で満足せず、體裁のよい羽織袴を好む傾がある。満期近くなれば、除隊の時は羽織袴でなければならぬと云つて親達に要求する。餘裕の乏しい親達は困ることは困るが無くしては肩身が狭からうといふ骨肉の婆心から無理算段をして羽織袴の用意をする。若しどうしても都合の出来ないものは他から借りて間に合せるものさへある。誠に受け取れぬ話のやうであるが事實である。之に就ても地方の人は曰く

由來軍人は質素を旨とすべきもので、軍隊は軍人をして質素ならしむべく教育する所である。軍人の精神として朝夕心に銘じて居らねばならぬ、勅諭には明らかに質素を旨とすべきことを御示しになつて居る。軍隊は此の聖旨を奉體し質素の心を鍛へて居るのである。されば、從來は華美贅澤の風に流れて居たものも、一たび軍隊教育

を受くるときは自然質素を尙ぶやうになるのが順當である。またさうなければならぬ筈である。然るに事實は之に反し、入營當時は質素な服装で入營した者が、軍隊教育を受けて満期となるに際して、却つて華美を好むやうになり親達に迷惑をかけ、甚だしきは借着をしてまでも服装を飾りたいといふのは誠に意外千萬であると同時に容易ならぬことである。これが軍隊に入つた爲にかやうな風になつたのであるから、聊か極端ではあるが人を質素ならしむべき軍隊は却つて人を華美に導く者であるとも言ひ得る。之は誠に遺憾の至りである。

以上の事も亦私が地方に行つて屢々耳にする不満愁訴の聲であるが隊長諸君はこれを何と聽かるゝか、以上地方人士の言ふ所必ずしも絶對の事實ではあるまい、けれども一葉落ちて天下の秋を知るべし、隊長諸君はこれを何と聽かるゝか以上地方人士の言に對し深甚の注意を拂はねばなるまいと思ふ。素より衣服は各自の物であるから猥に隊に於て制限することは困難であると言はれるかも知れないが、それならばかゝる

華美を好むの心を起さしむるのは如何なるものか、衣服の制限は困難であらうが、それは末の事である。華美を好むの心が原であるから、此の心を起させぬやうに仕向けなければならぬ。それは隊に於て當然努むべき事柄ではあるまいか、質素で入營した者が、満期に際して華美の風を好むといふ目前の事實を見て、地方人士が不満の聲を放つのは無理ならぬ事と思ふと共に、私は之を以て甚だ憂ふべき重大事と思ふが故にこれら地方の人士に代りて隊長諸君に訴へざるを得ない次第である。但しこゝに稍々喜ぶべき事は、一方では右の如く満期者が華美の風に趁るの風があるのに、地方に於ては軍服を着用するものが多くなるの傾があるのは結構である。地方によつては兵役義務に服した勤勞に酬るために村から軍服を贈る所もある。或る聯隊の如きは満期者は皆な軍服を着したが靴が高價で買ふに困る所から草鞋がけにて歸郷したといふことであるが、これ等も誠に結構な話である。借着をしてまでも身分不相應な装をして歸るやうな者と同一に視ることは出来ぬ。

隊長諸君に訴へんとするのは以上の事柄である。隊長諸君に於かれてはよくこのやうな所に就て思考あらんことを切望する次第である。

分會に對する地方官側の感想

自分は過般赤十字社の大會並に地方長官會議のあつた際に、各數郡長又は豫ねて懇意な知事諸君もあるもので、其等の諸君に御目にかゝつて、在郷軍人分會に對する所見即ち地方官側に於て如何に感じて居られるかに就て、種々談話を交換して見たが、其感想は人に依り地方に由つて多少の相違はあるけれども、主なる事項を綜合すると大略次の如き事に歸著するので之れを諸君に御傳へして御考慮を願はふと思ふ。それは先づ左の如きものである。

近來在郷軍人分會といふものは、以前よりも良い意味に於て大分様子が變つて來たことは確に認めることが出来る。以前は、全く軍人の一の團體であつて地方官などの

關係すべきもので無いとの過つた考があり、又さう云ふ態度があつたやうに思ふたが、近來は大いに判つて來て、分會が段々と地方官と接近し、又相談するやうにもなり、地方官も亦分會が如くなる目的を以て設立せられてあるといふことを認め得る迄になつて來た、これは地方官としては甚だ喜ばしい事柄である。さり乍ら今日の狀況を大括して云ふと、まだまだ之れが地方人民の中堅であるとか乃至は之れが地方の中心團體であるとか殊に在郷軍人會の方に據つて、地方の改良を計つて行かうと云ふ内務大臣の御趣意に合して居るといふの段取りになるのは、前途未だ遠遠であるといはなければならぬ。何も彼も打ち明けて申すならば、大正四年の御大典に於て、畏多くも、陛下より優遇を賜はつた事から、漸く覺醒の端緒を開いたに過ぎないものと思ふのが妥當であるかも知れない。

第一、町村には町村の分會があり、郡には聯合分會が漸次組織される數が増加して居るが、此等分會なるものが、進んで地方の公益の爲に團體としての力を發揮しやう

又此の分會に於て、地方の青年に對し將來忠良なる國民たるべき好感化を興へるやうに誘導して行かうと云ふやうなことの現實される迄には、今少し分會員の精神的結合が固くなければ可けない。忌憚なく之を言ふなら、分會の中心となるべき人々が今少しく熱心に眞面目に自己の誠意を披瀝して、官公吏又は有志の人々に對するといふ意思が無くてはならぬ。分會の實際の有様を観ると、唯其分會の或部分の二三の人達が其の精神を能く嘖み込んで居るやうではあるけれども、其大部分に至つては決して能く了解して居るとは思へない。全體地方には分會員がさう澤山に居る筈のもので無いのに、其等の會員がまだ、眞實に精神上の團結をしては居らぬやうに見受けられる。中には會員であり乍ら會のことを彼是誹謗する者さへある始末、乃至は其會員になることさへも避るといふ者もあるが、そんな事では到底會の目的と云ふものが達せられないものでない。況してや地方に重きをなすなどは思も寄らぬ事だ。先づ第一に會員相互の意志を疏通して分會の精神的結束を鞏固にし、且つ分會の中心人物たる人が、

今少し會の爲めに、會の目的を達成する上に於て、勇氣を出し、同時に熱心といふことが伴はなくてはならぬ。又一つは右の如く會員の精神的團結を鞏くし、公益の爲に盡し、青年者の爲めに先達者となつて地方改良の中堅とならうとするには、如何にすべきかに就て考へ、其手段方法を熟慮工夫し、且つ鞏固なる意思を以て之を貫徹し、其れが爲めには進んで地方の官公吏に接近し、意思の疏通を計るといふ事でないならばならぬ。動もすると自己の奮勵努力によつて、自然に他の信頼を受けねばならぬといふことをば棚に上げて、他人が便宜を與へて呉れないから困るの、郡長や町村長がこの位の事ならして呉れさうな者だの、とかく他人に依頼するといふことが先きになるものであるが、之れが抑々考へ違ひの大なるものである。

今日は何人も在郷軍人會なるものを認めては居るが、其れは單に形の上のみで、實は信頼すると云ふほど内容が充實して居らぬ。内容を充實せしむるには如何にするかを進んで考究する程の意氣込みが、果して分會に存在するか否かさへも疑ふて居るや

うな有様である。分會が一地方の中心とならうとするには、分會としては成るほど斯の通りでなくてはならぬといふ一の特徴が發揮されて居なければならぬ。世間並の人間と少しも違つた所が無く、世の中の風潮に隨つて平凡に只其會の名のみを存續して其の働きの精神方面には何等の特色をも見るべき物が無いといふことなら、どんなにしても地方の中心となることは出来ない。又地方官側から云へば、其分會が地方の中心となるやうに發展して來て、會員が皆々協同一致して其れが爲に公共的事業が盛んになり地方の生産事業迄も發展すると云ふ位にならなければ、吾々としては當だ左様な團體が幾つもあると思ふに過ぎぬ……團體の数が殖えるばかりだと視るに止まるのである。假令軍人の團體であつても、公共的貢獻を爲さぬ……特色のないものなら實は地方官としては却つて迷惑千萬であると思ふ。殊に軍人の團體と云ふけれども眞に軍人として取扱はれるのは、勤務演習といふか簡閲點呼といふか其他軍隊に召集せられた期間のみ軍人であるけれども、其他は全く普通の人民である。而してその人々

が普通の人民と少しも變つて居ないといふことであるなら特に軍隊教育を受け、陛下の優遇を賜はるといふ程何處に特色があるか？ とうしても此等の人々は地方人民中で一種の特色を有つて他人から尊敬されなければならぬ筈だ、其特色が發揮されない限りは、中心團體として認めたいと思つても事實に於て重きを置くといふことは出来ない譯ではないか。

吾々から云ふなら、分會を唯軍人の團體といふよりか人民中の優良分子の結合だと斯く考へてるのである、又左様なくてはならぬ。さればこそ地方改良も其人達の御蔭に依つて成し得られるのであるが、果して今日夫等の人々が優良分子であるかないかさへも既に疑問の裡にある。其故吾々も出来る丈此の團體の爲に世話もし、協力もするが、分會の中心となる役員諸君を始め今少しく自ら省みて人民の優良分子の結合であるといふ實を示すことに向つて奮勵努力して貰ひたいものである。

以上は地方官側の談話の大要であるが、自分はその話を聞いて、地方分會の現状は

なる程斯様なものであらうか、地方官の方々の觀察が斯かる事に一致するやうでは甚だ以て遺憾千萬な次第だと思ふた。實は自分が分會に對する感想を聞いたのは、今少しは良い感想を聞き得るだらうと期待して居たが、各方面の感想を綜合してみると、結果は豫期に反し前述の始末である。そこで自分の豫期はみんな自惚れ根性で、實際に於ては分會其物が自ら奮發しなければ内容の充實といふことは非常に難しい、陛下の大御心に叶ふにはまだ餘程距離が遠いと、思はず嘆聲を發した次第である。

實は此感想を地方官から聞いたと云ふのは、分會側から聞くと、郡長や町村長側からも少し便宜を興へてくれたら……骨を折つて呉れたら旨く行くだらうなぞ、支部長の方でさへもその事を内務當局者に話してくれといふやうな人もあつた位だから自分も果して如何なることにしたらよからうと大いに心配してゐた。然るに、地方官側から見た所は右のやうな始末だ。これでは地方官に向つて不足も言へぬではないか地方の分會は先づ地方官側から云へば、分會は先づ自分の頭にどまつた蠅から逐ふて

かゝれ、他人に彼是頼むより自分から努めよ。自分の不行届きは棚に上げて他人が助けてくれぬのを怨むもないものだといひたい程だらう。殊に郡長の方々は中々分會の内狀に熟知して居られる。分會長 諸君は其點に於ては餘程省みられなければならぬまい。決して郡長は知らずに居て彼是言ふのではない。分會長 諸君は先づ分會員が地方の優良分子の結合であるといふことに就て、精神的にもその特色を發揮するやうに努められないと、地方人士の信頼の目標となることは誠に覺束ない、其れが覺束ないやうでは萬事が駄目だ。

殊に地方官は次のやうに考へて居られる——近來青年團が漸次昔の青年會を改造して内務文部兩大臣の訓令の趣旨に基いた新しい團體が發展して來た。又吾々も益々その發展に努力しやうと思つて着手をして居るが、此青年團が良くなる悪くなると云ふのも亦地方の在郷軍人分會の良否に非常なる影響を有する。吾々は青年團を發展せしめんとすると同時に、在郷軍人分會の腑甲斐なき有様を見て、實に遺憾に堪へぬ。青

年團が發展すれば、軍人分會は當然兄弟であるから、兄弟から先づ奮闘して呉れなければ青年團にも影響するのは當然な事で、分會が總領の甚六で弟の青年團の方が却つて良いと云ふことになつたならば、甚だ不釣合千萬なことである。此大切な一轉機に立つて分會の發達奮闘を切望するのは、更にその意味からも重大で、其地方で在郷軍人分會は見る影もなきもの、青年團は隆々たるものといふやうな有様は、甚だ残念至極の次第である。吾々は分會の發展をすることを切に希望してゐるが、傍でどんなに思ふても御本尊の努力が足らなければ吾々は不足を云はずには居られないのである。

右の方面から云ふても、分會としては青年團勃興の此際何とか一つ考へられなければならぬまい。さもなければ分會は全く地方人士から輕蔑せられ邪魔物視されることになるから、此事に就ては支部長始め聯合分會長 諸君はよく／＼思を廻らされて良い方法を考究して貰いたいのである。

念の爲にこゝに申して置くが、本年の勤務演習は昨年のものに比すれば召集される諸君は大分骨の折れる程度が高いといふことを覺悟して居らなければならぬ。折角の演習召集の價値を益々大ならしむる爲に、逐年演習が嚴格になつて来る（勿論從來も嚴格ではあつたが、嚴格の程度が一層高くなつた）殊に本年の簡閲點呼の如きは益々さうであらうと思ふから、豫め其覺悟が肝要である。之れは今日の歐羅巴大戰争の状況を考へて、將來の日本の運命に思ひ及ぼして見れば自ら明瞭なことである。又日本の國軍を健全ならしむる爲には、之れは即ち時世の要求であつて、軍事上最も大切な事であるといふことを了解せられたい。

昨年勤務演習召集に體格検査を嚴密にやつてみると、在郷軍人で花柳病に罹つて居るものが實に多い。之は誠に忌はしい現象で如何にも不愉快千萬な結果である。本年は體格検査の結果を諸君に一表に作つてお目にかけるが、先づ第一に諸君は體力を保持し忌はしき不潔な疾病に犯されないやうに注意するのは勿論、在郷軍人の多くがさ

うゆふ状態に居るといふことを殊に分會長諸君は御注意を願ひたい。

更に教育程度の方面から青年の體格は如何なる状態にあるか觀察してみれば其結果は教育程度の高い程身體が虛弱だといふことになつて居るが之は實に憂ふべき現象である。即ち其の身體が、教育の程度の高い人は、これから世の中に出で、最も活動し得る素養を有して居る人だのに、それが身體がこんなに薄弱であつては思ふ存分の活動は出來ぬではないか。其れでは文弱な人、書物蟲とか云ふことになる。折角世の中に出て働かうといふ時には身體が思ふやうに働かして呉れぬといふことになる。こんな矛盾したことは、國の發展する徴候ではない。必ずや健康と學問とが併行して行かなければ可い。此併行が出來ぬ状態であつては到底大發展の國民たることは出來ぬ、又之が國として頗る悪い徴候である。要するに、文明の人は教育と體格、人格の三つが揃はなければ逆も眞の文明の人ではない。體格と人格を外にして文明の人にならうとするのは眞に不可能の要求であつて、其れこそ百年河清を待つといふよりも尙

當にならないものである。諸君は之を見られても國の運命といふものが如何に健全なる體格を要求するかが首肯し得られるだらう。

中隊長並分會長諸君に希望す

分會長に代つて各隊の中隊長諸君に一言す

吾々分會長は、近來各隊から現役兵の狀況に就て、種々御懇切なる通信に預り、其れが爲に地方の人々が軍隊の如何なるものであるかといふことを、大分諒解して來るやうになつた。又今日現役を濟まして退營する人々は、以前の滿期歸郷者とは違つて放縱の行動をするものもなく大に眞面目なものになつたのは、如何に軍隊教育の効果が著しいものであるかを知り、且つ大いに感謝して居る次第である。

従つて吾々分會長も分會なるものを發展せしめる上に就て、此軍隊の御助力があ

る爲に頗る便益を蒙る有様であるし、又町村の官公吏の方々へも軍隊の狀況が漸々解かつて來て、其結果中隊長諸君の方へ廻る身上明細簿も以前とは異なつて餘程具體的となり御參考の材料にもなるやうに逐次綿密になつて來るであらうと信ずる。是亦至極結構なことで此際一入奮勵しなければならぬと吾々も大に自覺して居る所である。されば這般の意味を今少しく徹底せしむることの必要上、茲に中隊長君に對して希望致したい事柄がある。

滿期退營する人々の勤務の成績を地方に通知せらるゝに就て、聊か物足らぬ氣がする點がある。其れは成程其通知書には其筋より示されたる一定の雛型があつて其れに據られる事とは思ふが、吾々が見て往々物足らぬ——如何にも乾燥無味といふ感じがある點がある。其れが普通の人であるならば其れで宜しいやうなものゝ身上明細書で郷黨に於ける青年時代からの彼の性行が面白くないとか又は彼の經歷（入營前）に於て忌むべき事があるといふやうなものがあつたならば、之れに依つて軍隊教育の指導

法も異り又個人に適當な教育を與へられる事だと思ふ。然るに身上明細簿には彼様に其性行を書いてあるが其れが軍隊教育に於て「これまでの成績になつた、性質行狀も矯正された、郷黨に於ても益々獎勵を望む」といふことの注意を與へられた事はない即ち軍隊教育の効果が揚がり志操、行狀、性弊が矯正せられたといふことがあつたらば、其事を今少し親切に地方に御通知を受けたいものである。この點が少し形式的通報に止まつて居るから、軍隊教育の效果に依ての量を知ることが、出来ないといふ遺憾を感じる。吾々が之れを知れば、町村長の方々へも之れを吹聴して「入營前はかうであつたけれども退營の際には斯様々々の好成绩である」といふて、入營前薄かつた地方の信用を恢復してやる事が出来る。又、さうしなかつたならば、折角軍隊教育のお蔭によつて眞面目に復活した者も、其を認めて呉れる人が居なくなり、所謂「彼は前科者だ」といはぬばかりの待遇を相變らず郷黨から受けるやうな始末では、直ぐさま自暴自棄に陥つて、折角中隊長諸君が骨を折て矯正せられた効果が消滅するやう

な事になると思ふ、即ち軍隊教育の效果を郷黨に押し及ぼす事が出来ないのである。どうか、普通の者は別として入營前と退營後の性格、行狀、心懸等が斯くの如く善良になつたといふ特別の意味を有つた者は、出来るだけ詳しく知らせて貰はなければ吾々は彼の信用を恢復し得るやうに在郷軍人の先輩として力を盡してやりたいと思つて居るが、其處に兎角遺憾な點が多い、又反對に身上明細書にても善良なるもので在隊中の成績及び性行の觀察等が良好ならぬもので將來戒飾監督を加ふるを要するものに對しても同様である。

私が嘗てかういふ考へからして、某隊に就いて身上明細簿で不良と認められたものが、軍隊の勤務を終つたとき如何に矯正せられたかといふ效果の程度に就て五六年間の統計を調べて見たら次の通りの結果を得た。

入營年次	入隊當時の	除隊の際に於	除隊の際にも改
四十年兵	不良兵卒	ける改善人員	善されぬ人員
	三五	一七	一八

中隊長並分會長諸君に希望す

四十一年兵	三四	一七	一七
四十二年兵	三六	一九	一七
四十三年兵	三六	二〇	一六
四十四年兵	四四	三二	一一
大正元年兵	六〇	三九	二一

右の表は地方の某聯隊の成績を示したものであるが、更に都會聯隊の成績を調査してみると、左の通りである。

入營年次	入營當時の不良兵人員	除隊當時改善せられたる人員	除隊當時改善せらぬ人員
四十一年兵	四五	三二	一三
四十二年兵	四五	三三	一二

四十二年兵	四五	三三	一二
四十一年兵	四五	三二	一三
四十四年兵	六三	四一	二二
大正元年兵	四九	三二	一七
合計	二四八	一六七	八一

即ち都會の聯隊には比較的改善せられたる兵卒が多いのである。但し年々不良兵の數が多いやうに見えるが其れはさうゆふ譯ではなくて、調査が綿密になる爲表に顯れる數が漸次多くなつた所以で、之れは誠に結構な現象である。以上の比較表を見ても軍隊教育の効果が如何に重大な關係を有するかとわかる事で、折角の成績を吾々の不注意の爲に滅却するといふことは絶體にいけないと思ふ。

此表に依つてみると、實に軍隊教育の効果が偉大なことがわかる。然るに此効果は地方の者は比較的知つて居らない。右表の如く立派に矯正せられたる者に就て、今少

しく詳しく通知を得たならば、歸郷後の信用を恢復せしめることが出来る。其れこそ始めて良民良卒の實が擧る所以であると思ふ。其邊に就て軍隊では餘り頓着せられぬと云ふ譯はないと思ふ。

今日までの處では彼等が郷里に歸へると大部分元の不良人に爲つて仕舞ふといふのは、折角善良になつても郷黨の人々が其れを認めて呉れぬからのことで、吾々は實に遺憾なことだと考へる。なるほど、隊では身上明細簿の原稿と勤務の成績とを比較すれば分るではないかと言はれるかも知らぬが、地方ではそれを比較對照して内容を充分に解釋することの出来るやうになるまでは、中々むづかしい。其れ故に隊の方で爲し得る限り御注意せられたならば、其處で始めて軍隊が國民の學校であるといふの實に副ひ得るのである。前の表面に就て觀察すると不良者が年々増加する様に見えるが是れは必ずしも左様ではない、地方の方々が漸次身上明細書に注意を拂ふやうになつた爲に從來の如く隱蔽等の事が少くなつて漸次赤裸々に眞面目に即ち身上明細書が適

切になつた徵候で寧ろ喜ぶことと思ふのである。

分會長諸君に一言す

近來、毎年徴兵検査の結果青年の體力が年と共に衰へて來て、其れと共に氣力も衰へ思想も薄弱になつて、此分で推移すれば實に將來世界的に雄飛すべき使命を有する日本としては、誠に寒心に堪へぬ現象を見るに至つた。軍隊側としてもさう云ふ素質の軍隊では、各國に超越した軍隊を作るといふことは困難であると思考し、昨年十月以來、文部内務の此事に關係ある方々とも屢々相談を遂げ、さうして是非共青年の指導教育を今一層社會的に向上せしめなければならぬといふことに就て、意見の一致を見るやうになつた。そこで、過般地方長官會議の際には青年の教育に就て内務文部の兩大臣から訓令を發せられた次第である。又過日自治制度實施二十五年紀念大會の際に於ても、今般の御大典記念事業として青年の氣力、體力を養成し青年の覺悟を向

上せしめようといふことの事業を起すことを評決せられて、全國各府縣からの參集員へは參考として一小冊子を分配せられたのである。又文部省からは中等程度以上の學校には教育上の參考として分配せられ、尙ほ中央報徳會からも同様の目的を以て各府縣に分配せられた。更に内務文部兩大臣の連名を以て青年團設立に關する訓令を發せられた。

此冊子は兎に角在郷軍人各分會が郷黨に於て爲すべき事業中で最も大切な公共的のものであつて、且つ在郷軍人會が青年會と提携する上に就ては是非分會長諸君が之れを讀んで、各國の實例を知り又我國でも斯くの如くなければならぬものである、歐米各國では、この事業が如何に發達して居るかといふことを知つて置かなければならぬことと思ふ。

其故に一面には文部省の關係ある方々からも又内務省の當局の方々からも分配され之れと最も密接の關係を有する在郷軍人會にも之れを承知して居つて、さうしてこの

事業を發達せしむることの相談に應じ、又は自ら進んで此事業の發展に従事せらるゝといふことが大切である。

さて前に述ぶるが如き社會的國民教育を實施する上に就ては、各地方の在郷軍人分會は卒先して協力せねばならぬ。又此に由つて、陛下の聖旨に副ひ奉る所以であると思ふ。其れ故何處までも其通りに實行して欲しい。其れに就て私が提供した小冊子は必ず斯事業に對して多大なる參考になることを信じて疑はぬ。分會長並に役員諸君は是非御一讀の上地方有志の方々へ御吹聴あつて、雄大なる事情の組立に充分の御準備あつて然るべしだと思ふ。此事は單に私個人として申すのではない、陸海軍、文部、内務の當局の方々も亦其の通りを要求せられて居る次第である。要するに分會長並に役員諸君は進取向上の意思を以て活動して頂きたい。特に昨今の時勢は一日も苟安退嬰を許さないから、此點に就て篤と御分別が願ひたい。

徴兵検査を受けたる壯丁竝に其父兄に告ぐ

徴兵検査を受けた所の壯丁諸君、竝に其父兄各位に對し一言御注意を致したいと思ふ。尤も諸君の本籍地を管せらるゝ聯隊區司令官、徴兵官として直接責任を持つて居られる聯隊區司令官、又は郡長、市長から詳細に互つて御注意あることゝ考へるから、諸君は能くそれを守つて行かれたならば決して差し支へはない譯であるが、然し従來軍部で思ふて居ることが諸君の所に充分に了解せられぬ爲に、兎角雙方の間に不便があつたから念の爲に述べて置く次第である。

徴兵検査を受けたところの壯丁は、その體格に應じて、甲種、第一乙種、第二乙種、丙種、丁種及び戊種の六等に分けられたであらう。この甲種といふのは、至格強健な體格で、第一及第二乙種は、少し申分があるけれども兵役に適するもので、甲種、第一乙種、第二乙種の順序に現役兵を採り、其の残りから補充兵を採るのである。(尤も甲

種、第一乙種、第二乙種合格ても身幹の低いものは採用しないことがある。)丙種は國民兵役に服するもの、丁種は不合格で、戊種は「來年廻し」となるものである。さうして誰が現役兵になつて何の隊に入るか、誰が補充兵になるかといふことは、徴兵検査が全部済んでからのことで、大抵十月頃になると、夫々町村役場から諸君の處へしらせがあるのです、そこで始めて決定がつくのである。(現役證書又は補充兵證書で通知する)以下現役兵に當つた人々に就て申すことは、補充兵に當つた人々に就ても略々同様と心得て貰ひたい。唯補充兵は現役兵と同時に入營はしないけれども、教育召集の爲に入營するものもあり、又勤務演習や簡閱點呼にも出る義務があるのである。要するに補充兵は平時長く兵營に居ることはいないけれども、帝國の軍人として責任を持つといふことは、現役兵と同様である。

そこで諸君に御注意することは、第一に諸君の「身體を大切」にすることである。身體髮膚之ヲ父母ニ受ク敢テ毀傷セザルハ孝ノ始ナリ」と申す通り、諸君の中決して自

分の體軀を粗末にする者はないと思ふが、とりわけ合格した者の身體は、自分のものであつて自分のものではない。國家に盡す最も大事な義務を荷つて、天皇陛下に捧げた貴重な身體である。御承知の者もあらうが、先帝陛下の御勅諭の内に「朕は汝等軍人の大元帥なるぞ。されば朕は汝等を股肱と頼み、汝等は朕を頭首と仰ぎてぞ、其親みは殊に深かるべき」と仰せられてある。諸君はまだ隊に入らずとも、合格した以上は、天皇陛下の御手足となるべき人であるから、今よりも一層身體を大切に、怪我をしたり、病氣にかゝつたり、又刑罰に觸れたりすることのないやうに氣を付けて頂きたい。

一寸斷つて置くが身體を大事にするに云つても只遊んで食つて寝て居れといふのは決してない。食ふて寝て居ると却つて病氣の源となるものであるから、今迄通り各々家業に精を出し、且つ力技や遠足などをして、身體を鍛へて置くのが宜しい。従來現役兵に決定すると、其人は丸で家業を打ち捨て、遊んで居るものがあり、親達も餘

り叱言を言はぬといふ風があつたが、そんな心得違ひをしては行かぬ。兵役に出る人は、二年なり三年なり家の爲に働くことが出来ないものであるから、兵役に出る前には充分に働いて置き、また満期になつて歸つたらウンと働いて、二三年分の不足を取戻すといふ様に心掛けなければならぬ。諸君の内には間違つた考への人はあるまいが萬一にもあつたら、相互に意見をして、情けぬやうに注意しなければならぬ。さうしないといふ我日本國の殖産上に大そうな損失となる。

従來も合格した人で、いよく入營となつて、その村や町の人に見送られて郷里を出て來たが、入隊の其日に病氣の爲に歸へされる者が多數ある。この人は「翌年廻し」となり、又來年検査を受けて再び入隊することになるのであるから、病氣にかゝらぬ様にするに、又病氣のものは醫師にかゝつて速くなほして其年に入營するやうにした方が宜しい。

特に世間に恥づべき花柳病に罹らぬ様に呉々も注意されんことを切望する。これは

私がこゝに言ふまでもなく、此花柳病は多くは不品行より出る病氣であるから、軍隊では最も蔑視して、三等症といつて居る（公務の爲に起つた病氣は一等症、自然と起つた病氣は二等症、不攝生不品行より起つたのが三等症）。其三等症に罹つた人は、他の人からあれは情慾を制することの出来ない、則ち勇氣のない人である。克己心に乏しい者であるから、目をはなすことの出来ない注意人物であると思はれる。そればかりでない、梅毒の如き病氣を等閑にして置くと、遂には生命を失ふに至るのである。其上子孫に迄も病毒を残して、同じ不幸に陥し入れる最も恐るべきものである。年々徴兵検査の時には、花柳病も餘り澤山はないが、さて十二月一日入營となると、これが澤山出るので、市區町村役場の吏員などもがつかりするのである。これは検査後から入營迄の間に不品行なことをするからである。そんな人は前に私のいつた「天皇陛下に捧げた大事の身體」といふことを忘れて仕舞つた、不忠義な者と評さねばならぬ。苟くも忠義の心のある人は相互に充分の戒心をすべきである。

それから「トラホーム」に罹つて居る人が従來随分澤山あつたが、これも人から厭がられる傳染病であるから、是非早く治療をして、入營迄にはすつかり根治するやうにしなければならぬ。でないに隊に入つてから「トラホーム」患者は別室に隔離されて治療を受け、學術科の進歩も自然後くれると云ふ不幸を見るに至るからである。又この「トラホーム」も重いものは、矢張り即日歸されて來年廻しにされるから一年損をする。そればかりでない、遂には目がつぶれて一生を盲目で送らねばならぬ。

要するに、諸君の内花柳病に罹る者や「トラホーム」を治さぬものがあつたとすると、それは決して自分一個人のみの不名譽ばかりでなく、其の區町村全體の不名譽、其郡其市全體の不名譽、其縣全體の下評判となるのである。如何となれば、入營する者は其郷黨の壯丁の代表者であるから、其代表者が悪いといふと其郷黨の青年は不品行なものが多い、其村の風儀が悪い、あの町は衛生思想が發達して居ないと評せられても仕方がないのである。故にこの邊をよく考へて注意されんことを望む次第である。

次に刑罰に觸れるやうな行爲を慎まねばならぬ。今日迄諸君の内にも不良な行ひ、例へば賭博をして罰金を課せられたものや、窃盜をして禁錮になつたものが少しづつある。その人等は心底から後悔してもう二度とつまたぬことをしないといふ固い決心をして、今度軍隊にはいつたなら、よく／＼まじめにつとめてその名譽を取りかへす様にせねばならぬ。其他の人々は、今迄より一層注意をして刑罰にかゝることのないやうに心懸けねばならぬ。某歩兵聯隊の最近三年間の統計を見ると、入營前に刑罰に觸れた壯丁の多い地方の者は、入營後は軍隊で刑罰を受ける者が多いといふ證據があるから、軍隊で刑罰にかゝる人の多いのは、其地方に悪者が澤山あると見られても一言もない譯である。故に今後一層注意して、悪い事をせぬやうに互いた戒めなければならぬ。

其次に現役兵に當らない諸君、及び其父兄各位に御注意をして置くことは、入營する人に旗幟を贈つたり、餞別をやつたり、又送別會をしたりすることは斷然やめて頂

きたいことである。

從來「送某君入營」とか「祝某君之入營」とか書いた幟を立て、營門へ送り込む。丁度葬式の行列でもあるかのような悪い風習が各地にあつた。近來大分少くなつたが、油斷をすると悪い人があつて旗でも送つて餞で鯛を釣らうといふやうなことをする人もある。といふのは旗を贈ると受けた人はそれを黙つてとつては置けぬ。何か一つ御馳走をすとかせねばならぬ。其返禮を目あてに旗をやるので、兵の出る家ではどんな迷惑をする。中以下の家では随分無理算段をするそうである。又餞別をもらうと今度満期になつて還つた時に土産物を配らねばならぬ。それにも亦金の工面をせねばならぬと云ふ風で、兵の出た家には、はたらき盛りの者が居なくなるばかりでなく、莫大の出費が要るのである。それ故諸君は兵になるのは國民の義務である。權利である、出ることの出来ないのは耻辱である、と思つて居やうが、諸君の親や兄などの中には、金錢上の問題から、マアどちらかと申すと出ない方がよいと思つて居るものもあるか

徴兵検査を受けたる壯丁並に其父兄に告ぐ

も知れぬ。それ故旗や餞別をやめたら、無駄な出費も省くことが出来て、一面には父兄達が兵役の爲に受ける苦痛がなくなると思ふ。故にそれは諸君が申合せて、此弊風を根絶させるやうにして頂きたい。その代り現役に出ないところの諸君は、現役兵の家族を能く慰問し、若し家計不如意のものや病人などのあつた場合には、能く世話をし又手助けをしてやつて在營者に後の心配を掛けぬ様にしてやり、「君は私共の身代りだからどうぞ一生懸命勉強して下さい。後のことは残つて居る吾々が引受けるから心配するな」といふ風に勵ましてやることにしたならば、其人も安心して軍務に勉強し、良成績を得て無事に還るといふ様になるのである。さうしないと、軍隊に居ても家のことを氣にかけて、自然軍務も碌々身につかず、心配のあまり逃亡したりするものが出て来るのである。それは本人許り悪いのでない。残つて居る人々の責もあると申してもよいのである。又そんな者が出るのは其の村の耻辱となるのであるから、よくこの點は注意しなければならぬ。

尙諸君は入營前の心得やら入營後の心得などに付て細かなことを知つて置く必要があるが、それは各市區町村長や在郷軍人會分會で、入營前に軍人と爲つた者の心懸けや又入營前後の色々な細かい心得を話してくれるから、それに就てよく覺えて置くべきである。其外分らぬ事や心配な事があつたならば、何時でも其地の分會長に相談して教へて貰ふやうにするのである。私がこれ迄氣を付けて見るに、此等の話を聞いて來た人は隊に入つた時よく落着いてゐて、まご／＼しない。何んでも飲込みが早い。従つて自然進級も早く、又歸休になるとか、善行證書を貰つて歸るとか、必らずそれ丈の効果があるやうであるから、こゝに勸告する所以である。又在郷軍人會の分會で、諸君の爲に簡單な讀書や算術の復習をすることであらう。此讀むこと書くこと計算することは、軍隊に入つて軍事教育を受ける上に於て極めて必要のことであるのみならず、諸君が世の中に處する上に於ても亦必要のものであるから、軍人會や青年會などで催す夜學會などには務めて出席し、之を習つて置かねばならぬ。

徴兵検査を受けたる壯丁並に其父兄に告ぐ

私が従來徴兵検査場を見て不満足に思ふのは、諸君の内に服装が身分不相應でありはすまいかと思はれる人があることである。それは市町村長より出た壯丁の身上調で家計が豊でないと思はれて居る人が絹のピカ／＼した着物を着て居るので、一寸聞いて見ると、親戚から借りて来たとか、又は今度検査に就て特に拵へてもらつたとか云ふて居る。徴兵検査といふものは、着物の競進會ではない。諸君の身體の競進會である。裸體になつて検査を受けるので、絹の着物などは不必要である。それと同様に今度入營する時の服装も、何もピカピカした絹物はいらぬ。隊に入つたなら何一つ自分のものは身につかぬ。すつかり着換へてしまうのであるから、只禮意を失はぬだけの身成りをして入營すれば宜しいのである。これまで絹の着物を着て行くと隊の古兵等が鄭重に取り扱つてくれる。粗末な着物を着て行くとけんつくを喰ふなど云ふて着物の心配をするものがあつたと聞いたが、今の軍隊では眞面目なる人を尙ひ、華美を戒めると云ふ氣風であるから、そんなことは決してない。而して入營當日着て行つた着物

は、附添の人が持つて歸へるか然からざれば之を送り還へさねばならぬから、豫め包み用の風呂敷、油紙、麻繩、木札等を用意して行くが宜しい。

それから猶入營をする壯丁及其父兄に尙一言して置きたいことがある。それは外でもない。入營後家から金銭を取り寄せないと云ふことである。御承知の如く軍人の給與と云ふものは衣服は勿論のこと食物も皆官給であつて、然かも地方に於ける中流以上の品で、其の分量も亦決して不足を訴へることはない。其の上一月一圓五十六錢の給料を給せられるから、度々外へ出て贅澤をすれば限りのないことであるが、さもないときは此給料で日常の用は足りるのであり、中には心懸けの宜いものは、此給料の中から貯蓄をしたり、親元へ送つたりする者さへある。殊に軍隊では、此兵營に入つて都會の奢りの風に染まると、質實剛健の氣風がなくなるから、質素儉約と云ふことは御勅諭の旨を奉じて嚴重に實行して居る次第で、それが爲には營内に諸種の無邪氣なる娛樂の設備をして、營内に居て樂み、且つ休息すると云ふことに仕向けて居る

のであるから、決して金銭は要らないのである。若し兵卒が家に澤山の金銭を要求して來たならば、それは必ず善いことに使つて居るのではなくして、悪いことに使はれて居るのである。此事に就ては第一父兄の方々が、充分の注意をせられねばならぬ。然るに兎角父兄の方々が姑息の考へから、金銭を其子弟たる兵士に送る風がある。これは勉めて子弟を悪くするものと謂はねばならぬと思ふ。此事は各隊長から兵卒に始終云ふて聞かせるから、金を送つたり取り寄せたりすることは宜しくないと云ふことは大分了解せられた様であるけれども、然し尙裏面では姑息なる考へから之を送るといふことださうだ。甚だしいのになると親が面會に來て子供に筆を渡す、其筆の中に紙幣が入れてあつたとか、或は他人の宛名にして父兄から送金する。而して其中幾分かは其者に手数料として取られる、とか云ふやうなことも聞いた。どうか若しも其の子弟から金銭を要求して來たならば、軍隊に於ける師父なる中隊長に向つてその可否を問ひ合せられ、而してこれを送るときには中隊長に宛てて送る様にして貰ひたい

さうすれば中隊長がよく監督をして、本人を過まらせないやうにすることが出来る。軍隊に入る者の中には富裕なる者もあり、又豊でないものもあるが富裕であるからと云つて其子弟たる兵士に澤山の金銭を興へ、贅澤をさせると云ふことは決してすべきでない。何故なれば前申した様に、軍隊では御勅諭に基き質素と云ふことを旨と致して居るのみならず、衆人が同一の家庭内に生活して居るのであるから、其の中の或る者が贅澤をするといふことは悪影響を他に及ぼすに至るからである。

それから父兄に於て、入營後の子弟の事に就て何でも心配なことがあれば、遠慮なく中隊長の處へ手紙を出して聞くが宜しい。中隊長から直ちに返事のある筈である。或は所在地の在郷軍人會の分會長に頼んで、在隊中の模様を問ひ合せて貰つても宜しい。此の中隊長と父兄との間の連絡が能くついて居なければ軍隊で諸君の子弟を教養して行く事が出来ない。軍隊では入營者を取り扱ふのにも之を教へるのにも、第一入營前如何なる性質品行の人であつたかを知つて手加減をして行かなければ、完全な

兵卒を仕立上げることは出来ない。それであるから、父兄たる人々は何事も裏みかくさず、父兄の考へ通りに中隊長に通知すると云ふことが必要である。然るに中には間違つた考へを持つた人があつて、之を中隊長に隠す、其爲に子弟は思はぬ不幸を見る。云ふ例が澤山にあるから、何事も打ち明けて直接に、又は在郷軍人會分會長を経て軍隊の方へ話して見る事が必要である。

軍隊に於て兵卒を教育し、又之を進級せしめ、満期歸郷の際に善行證書を與へる等の事は、第一に入營前、郷黨に在りて此人は如何なる人であつたかを取調べ、之を参考として、軍隊に入てからの成績を加味して、之を行ふべきものであると考へるから入營後立派な人になるには、青年時代から郷黨に於て人に賞められるやうな人でなければならぬ。それには壯丁の身上に關する一切の事項といふものは、市區町村長の方から入營前軍隊に通知せられるものであるから、平素市區町村長や、小學校の校長や教員や又は在郷軍人會の分會長などから、善い見込を付けて貰つて居ると云ふこと

が大變關係をして來る。それであるから、青年の人々は徴兵検査を受ける前から、軍人になつた積りで、能く身を慎み、行ひを正しくせねばならぬ。又現役を終つて郷里に歸つたならば、此人は在隊中如何なる成績であつたといふことを隊長の方から市區町村長の方へ通知せらるゝやうになつて居る。右様の次第であるから、男子たる者は、子供の時から満四十歳になつて兵役義務を終るまで、其の人の身上は皆市區町村長の所で善く分る様になつて居る。若し此の人は果して如何なる人であるかを知りたいと思ふたならば、市區町村長の所で聞けば一番善く解かるのである。それ故郷黨に於て評判の悪い人は立派な軍人にはなれない。又軍隊で良好な成績を得る人でなければ郷里へ歸つて、地方の信用を繋ぐことが出来ない。之に反して青年の時代に郷里で評判が良く品行が方正であつた人は、軍隊に入つても善良なる軍人であり、善良なる軍人は、郷里に歸へつても善良なる國民である。どうか父兄の方々は、子弟を兵營に入れるといふことは、子弟の精神を鍛鍊し、氣力と體力とを養ひ、忍耐力を強くし、規

律を守るといふ最も必要な所の徳性を養ふ所以である。要するに軍隊は健實な國民を養成する一の學校といふことを諒解せられたい。

軍隊教育と國民教育

私は、今日は在郷軍人會の理事として、皆さんが折角御與へ下さいました此機會に際して一言申し述べたいと思ひます。どうぞ私が申し述べますことを、しばらくの間何卒御聴取を願ひます。殊に唯今鹽野君（同君は熊本縣視學にして一同を代表して謝辭を述べ、我が國の前途は益々多事にして今や實に國民の覺醒奮起を要するの秋に際し、在郷軍人會の發展は最も緊要なることなり、而してこの際特に注意すべきは國民の協同一致なり、即ちこの事がたとへ文部省の管轄にせよ内務省の管轄にせよ國家に必要なる事であるならば、各方面の人々が協同して之に膺ることが大切なり、我々は此覺悟を以て自ら任じ他を導かざるべからずとの意味を力説せられたり）の御言葉が

ありましたが、吾々は貴君方から斯様な御言葉を承ることに就ては實にこの上もなく愉快に感ずるのである。又私共は我が國の前途に多大の光明を認めて、帝國の將來は往々世間の人が悲觀する如き境遇にあるものでないといふことを益々感ずる次第であります。

そこで今日皆さんに申し上げたいと思ひますことは、軍隊教育と國民教育といふことに就て、又在郷軍人會と青年團といふことに就て具體的に如何なる關係を有して居るかといふ點であります。此の事を申し述べて御參考に供し、尙此上とも御配慮を願ひたいと思ふのであります。唯今鹽野君の仰せになつた如く今日以後は苟くも重大なる國家事業と認められたものは、其事柄が文部省の所管であらうが、内務省の所管であらうが、乃至は陸海軍の關係であらうが、御互に隔意なく熱誠を以て協同的に其事業の發展を圖る、即ち鹽野君の御言葉を借りて言へば國民の協同心の涵養といふことが最も將來の爲に努力しなければならぬことであります。而してそれが國民の徳義心を向上

せしむる所以であるならば、先づ吾々が、此範を社會に示すといふ意氣込みで、これが實例を事實の上に示すことが必要であります。此意味に於て貴君方の御承知の通り在郷軍人會は文部省の方にも、内務省の方にも、又農商務省の方にも誠に大なる協力を受けて、御蔭で在郷軍人會が稍々發展の状態に向ひつゝある次第でありますから、鹽野君も申されたやうに地方に於ても先づ御互に協同の實を擧げて範を示す所謂率先躬行が第一に必要であらうと存じます。そこで國民教育と軍隊教育といふことの關係であります、是は申すまでもないことで、取り分け軍隊と國民とが嘗て世間の人が杞憂を抱いて居つた如く阻隔するやうなことがあつては相成らぬことで、將來吾々が本分を盡す上に就て、戦争といふものは軍隊の戦争ではなく國民の戦争である。又今日の歐羅巴の戦争状態に鑑みても、戦争と云ふものは軍隊のみが戦争をするに非ずして、國民が有らん限りの體力、能力、財力を傾倒して相争ふのが即ち今日の戦争である。只軍隊と云ふものが先づ一番先きに出るべきもので、他は軍隊に續いて漸次所用

に應じてその力を強めて行くものである、かうゆふことは最早疑もないことである。従つて軍隊と國民といふものが斯の如き關係であるならば、即ち國民教育といふことと軍隊教育といふことは矢張り其軌を一にして居らなければならぬといふことに歸納するのであります。固より私が此に於て申し述べる迄もなく教育勅語も、明治十五年に軍人に賜つた御勅諭もその主旨に於ては毫も變りはない、従つて能く軍人が申す軍人精神といふことも、軍人に特別な精神があるべき筈のものでない、軍人精神は即ち國民精神でなければならぬ。又此意義に於て國民教育と軍隊教育と云ふものは一致すべきものである。又一致せなければならぬものである。軍隊教育といふものは、陸海軍共に軍に戦争に必要な技能を教へ若くは之を鍊磨するのみならず、最も大切なものは即ち此軍隊に於ける軍紀の涵養と云ふことである。軍紀が緊張せなければ軍隊と云ふものは十分に其能力を發揮することが出来るものでない、即ち軍紀なるものは所謂軍隊の命脈である。而して其軍紀なるものゝ内容は如何なるものであるかと云ふと、

それは所謂協同と云ひ、服従と云ひ、規律といふことで、其れが即ち軍紀と云ふもの
の内容である、軍紀の嚴肅なると云ふことは、又其軍隊が強いと云ふことは、總ての
者が協同と、服従と、規律と云ふ此德義心の厚いといふことを意味するので、斯の如
き軍隊が即ち軍紀の嚴肅なる軍隊と言得るのである。而して此服従と云ふことは、之
を國民としての立場から云ふ時は、國としてなり、自治體としてなり、苟も法令規則
として定つたものは必ず誠實に之を遵奉するといふことである。是が即ち國民の最大
なる德義である。協同と云ふことは申す迄もなく國家組織の最大要素であつて忠君愛
國と云ふことも亦此意義を擴張されたものである。自治と云ふことも其精神は即ち協
同である、又規律といふことは事物の秩序を立て、順序正しく行ふといふことである
總て成功の基礎は此規律的觀念の緊張に存するもので、是が即ち軍隊の所謂軍紀の内
容である、而して軍隊教育と云ふものは此德義心を涵養すると云ふことが最も大切な
ことで、而してそれが又國民教育の信條であらうと私共は考へる。是に於て軍隊教育

なるものと國民教育なるものとは唯其場所や形式が違ふだけで、其意義に於ては徹底
的に一致して居るものである、又一致しなければならぬものである。若し是が一致し
なかつたならば國民皆兵の意義精神は没却せらるゝものであるが、二者決して相異る
べきものでない、何れの點に於ても其間に水も漏さぬ如く相密接した同心一體のもの
でなければならぬ。若しこの原則に背馳して居るならば其結果は即ち國家を危くする
と云ふことになるのである。是は理義の説明を要せず、今日歐洲各國の交戦状態は我
々に生きた教訓を示して居る。以前は随分、これは教育家の範圍であるとか、これは
軍事上の範圍であるとか互いに隔壁を築て調和を缺いた時代もありましたやうだが、
今から考へれば御互いに背に汗を催す程恥しい次第であります。そこで始めて今日の
陸軍の軍隊教育令中にある所謂良兵を作るは良民を作る所以であるといふことの意味
が益々明瞭に了解が出来得るのである。其故に國民教育と云ふものと軍隊教育といふ
ものとは必ずや同一經路を辿つて行くべきものである。軍隊教育は一面軍人としての

技能を練磨するものであるが、一面に於ては是が即ち公民教育である。此意義に於て軍隊としては、軍隊教育を受けた者は一面良民として世人から認めらるゝやうに仕立てなければならぬ、斯う云ふのが今日の軍隊教育の趣旨であります。従つて私共が在郷軍人会を指導して行きます上に就て、何事を爲すにも國民教育に任じて居られる學校の職員の方々と始終相談して行かなければならぬ、努めて意思の疏通を計り協議を遂げ、其御協力を受くるやうにして行かなければならぬものである、是は勿論官吏、公吏の方々は申すに及ばぬことでありますが、就中教職に居られる方々と意思の疏通を缺くやうなことがあつては相成らぬといふことを常に在郷軍人分會に向つて申述べて居る次第であります。

そこで今日は小學校の義務教育を終り、更に青年團の社會的教育を受けて、さうして軍隊の方にそれを御引受けをして最終的教育を施すといふ順序であります。其出來榮と云ふものは實に貴君方の提供して下さる學校に於てなり、若くは青年團に於て

なりの御教育御指導の效果如何に大なる關係を有し、就中精神的方面に於て特にその感を深うする次第で、畢竟軍隊の強弱と云ふことは一面に貴君方の御努力を待たなければならぬといふやうな關係になるのであります。それで貴君方もよく御承知のことでありますが、軍隊では壯丁が入營をします前に、皆身上明細簿と云ふものを各町村から取つて居るのであります。この身上明細簿によつて始めてこの兵卒の個人的關係、即ち彼の青年時代の性行から家族的の關係に至るまで總てのものを調査して、さうして先づ各個の性格に應じた個人的の教育を施して行くのが今日の教育の方法であります。丁度それは貴君方が小學校の兒童を教へなされるのに始終家庭の關係を能く御調査になつて、而してそれに手加減を加へて御指導になるといふのと同じことでもあります。そこで私共の具體的に希望して居ることは、段々青年團の社會的教育が進んで來ることになれば其身上明細簿といふものには一面青年團員として貴君方の御指導の下に教養されたその結果が現れて來るやうになりたいものであると斯く思ふて居る

のであります。そこでその身上明細簿といふものを軍隊で受け取つてみると、其人の性質は斯様なものである。此人はかうゆふ性弊がある。斯人はかうゆふ順良な人である。と云ふことが始めて明瞭に分るのであります。従つて青年團に於て社會的教育を受けた其効果が直ぐに軍隊に移つてくる、即ち貴君方が認めて此青年は有望の青年である。此青年の性質は實に立派な性質であると、斯う御認めになつた者は之を受取つた軍隊では直ぐに——軍人としての技能は是は別であります、青年團時代の性行から考へて、此者は上等兵になれる資格のものであるとか、此人は能く仕込めば立派な下士官になれる人であるとか云ふことの大體の判定が出来る。それ程までに貴君方の小學時代から青年時代までの御骨折の効果を應用して行かなければ本當でない。かう私共は私に考へて居るのであります。それで兒童教育から青年團に於ける社會教育の効果を軍隊に提供されて、軍隊はそれに依つて兵卒に個人的教育を與ふる唯一の資料にする、唯一の参考になる、若くは之を上等兵にするなり、下士にするなり、下級幹部

の候補者選擇の爲には是が一番参考材料になるものであるといふことにまで密接なる連繫を持つて行きたいのであります。さうなるとこの國民教育即ち小學校教育から青年團員の修養といふこと、軍隊教育といふことが始めて筋目正しく脈絡の一貫したものであるであります。此一貫したのものになつて、始めて今鹽野君の御言葉の如く今日聯合軍を相手に威力を揮つて居る獨逸國民を將來向ふに廻して決して遜色のないやうに競争に打ち勝つことが出来る。兎に角小學校教育、青年團の社會的教育、軍隊教育、此筋目が一貫して居らなければ決して偉大なる國民教育の效能を發揮することが出来るものでない、是に於て良兵は良民でなければならぬといふ趣意も、國民教育といふこと、軍隊教育といふものは離るべからざる關係にあるといふことも、また在郷軍人會に於て特に貴君方の御協力を冀ふといふことも此意味に於て御了解下さるやうに願ひたいのであります。そこでこの在郷軍人は即ち貴君方の小學校から、青年團員の時代迄手鹽にかけてそれを軍隊の方に御移しになつて、軍隊で之を單に口頭で言ふ

て聞かせるといふ許りでなく、現實的に、若くは勤勞的に鍛鍊を加へてさうして、又貴君方の御手許に御返しする。そこで始めて在郷軍人になる。其れ故この在郷軍人は亦七八年前には貴君方の手しほにかつた子供が順序正しく教育され、今日は公共の爲めに働く所謂是が即ち優良なる國民でなければならぬ。在郷軍人は斯の如き順序正しき教育を受けた者であるから、之を結合したる在郷軍人會といふものは國民中の優良分子の結合であると云はれて耻かしくないものが出来なければならぬ。又私共は道理上さうなくてはならぬと思ふ。又其意味に於て會員を督勵して居る次第であります而して今日在郷軍人會の情況が吾々の目的を達し得る順路に就いたとするならば、實に國民教育に任じて御出でになる貴君方の御力である。是が正路に向つて進み出すには是亦當然貴君方の御協力に俟たなければならぬものである。かうゆふ順序に進めて行きたいといふのが即ち在郷軍人會の趣意なのであります。

又軍隊は前に申し述べた身上明細簿を頂戴して其効果を貴君方に御知らせしなければならぬ義務がある。そこで今日は勤務成績書といふ名の下に軍隊で勤務して居る間の成績を町村長の方へ送り返すやうになつて居ります。將來斯の如き連絡を密にして段々御互に協力して進むならば、身上明細簿には斯う云ふ風に書いてある。是が軍隊に入つてどういふ人間になつたらうかと云ふて、勤務成績書を手にとつてそれを引き較べて御覽になると、軍隊に於ての此二年なり三年の間に青年等の精神状態、其他性行の上に如何なる變化が生れて来たかといふことも御分りになり、教育家の方々には中々趣味のあることだらうと思ひます。又軍隊の側からは其勤務成績書を貴君方に見て戴きたい、若し書き方に不徹底の所があれば御注意を頂戴致したいのである。それを御覽下さるといふことに於て始めて國民教育と軍隊教育の筋目が事實上に一貫をして來ると云ふ結果を生ずるので、而して更に在郷軍人會に對し貴君方の御幫助を願ふといふことが頗る適切なる意義を有することになるのであります。

就きましては取り分け御願ひを致して置きますのは、町村の分會長と申すものは

地方に依つては在郷將校が分會長をして居る所もありますが、或は下士で分會長をして居る所も乃至は上等兵、或は唯の兵卒で分會長をして居る所もあります。其れ故貴君方から御覽になれば不行届の點も多く彼等自身の方で仲々會の結合を圖つて行き其内容を充實せしめて行くといふことが六ヶ敷い、其れには力が足らぬことも恐らく多い事で、如何に督勵をしても所謂長鞭馬腹に及ばずで、心には思ふて居ても實際其力が足らぬと云ふ所が多々あることも能く了解して居りますで、是等はどうか貴君方の御協力に依つて彼等をして満足に分會長を纏めて行き得るやうに御手引を願いたい。取分け貴君方に御願申上げるのは本年から未教育補充兵の簡閱點呼を行ひ逐次之を正會員に加ふる様になりましたに就ては之が爲に分會の結束に緩みが生ずるやうになりはすまいか、何分未教育補充兵は軍隊教育の経験なき人々であるから、既教育者に比して軍人的勘辨が薄い、その點が私共の最も懸念する所でありますから、分會内部の調和結束に就ては切に一層の御助力を願います。要するに政治的關係若くは營利の方

面に全く超越して御出でになる教育家の御手引を願ふといふことが、殊に在郷軍人會といふ性質にとつては最も必要なことである、大切なことであると、斯う思ふのであります。従つて是は尙ほ私が希望として申し述べて置きますが、在郷軍人會の規約も近々改正を致しまして、教職に御出でなる方々は此在郷軍人分會の顧問になつて戴くやうに致さうと考へて居ります。又それを文部省の方に御話をして御同意を得たならば吾々の希望も更に一段と歩を進めるであらう、又貴所方を分會の顧問に推戴するといふことを規約で極めるといふことは、即ち私が唯今申し述べた趣旨を現實ならしむといふことに過ぎないのであります。幸にさうなりましたならば従來とても多大の御協力を受けて居るのでありますが、どうかこの上とも一層の御協力を願つて、彼等をして立派な軍人であると共に、又一面其地方に於ける優良なる國民の結合であると認め得られる迄に御指導を偏に御願ひ致します。就ては各郡の聯合分會長は充分以上の意味を會得して居る筈でありますから、何事も彼等より貴君方に御相談致すことゝ存じ

ます、左すれば貴君方からは各町村の教職にある方に其旨を御含め下さるやう御願ひ致します。實は身分は在郷軍人と申しましても彼等は勤務演習、簡閲點呼といふことに召集されましたならば純然たる軍人として取り扱ふのでありますが、其以外に於ては一般國民と毫も變りはないのであります。官公吏の方々が此在郷軍人會の爲に今日多大なる御同情と御協力をして下さる所以亦獨り國軍の爲と申すばかりでなく、一面國民の指導誘液といふ意味もあることでもあります。是は陸海軍のことである、是は内務省のことである、吾々に關することでない、是は文部省のことである、吾々の關することでないといふのでは協同といふことは行はれるものでない。若しも我々御互の間に協同心が缺乏して居たならば如何にして國民の協同心を涵養すべきか、即ち今鹽野君の言の如く協同の徳義心といふものが國運を隆盛に導く基礎であるならば、其基礎を築くことに御互が努めるといふことが先づ第一ではあるまいか、此見地から中央部では御互に相努めて居る次第でありますから、取り分け國民教育に任じて御出にな

る方々に於て、特に其意義が徹底する如く御盡力下され、それが一般に範を示すといふまでに効果を擧げるやうになつたならば、總ての點に於て大なる影響を與へることであらうと固く信じて居る次第であります。従つて在郷軍人會といふものと青年團といふものの關係は如何なる立場にあるものであるかと云ふことも能く御了解さるゝことと信じます、即ち青年團員の大きくなつたものが在郷軍人會員である。其故青年團の爲には在郷軍人會は出来るだけの協力をしなければならぬ。之は軍人會として當然努力すべき最も重要な事業の一であるといつて督勵して居りますが、貴君方の方面からも青年團の爲には斯う云ふことに骨を折り、あゝ云ふことをして貰いたいと云ふことを在郷軍人分會に御遠慮なく御注意下されば分會としては喜んで御注意に従はなければならぬ立場に居るのでありますから念のために申述べて置きます。

餘り長くなりますから、私はここで申し述べることを差控へますが尙私の微意の存する所は言外に御汲みどり下さつて、今鹽野君の言はれた國家將來の爲と云ふ意味を

どうか現實されるやうに、偏に御配慮を願ひたいのであります。

(大正六年四月二十一日)

指導上に就ての要求

本年侍従武官を第二、第十七師管に御差遣になつて親しく在郷軍人の状況を視察せしめられたことは諸君の御承知の事であるが、その所見に依つて見ても、大體に於て分會の状況は漸次向上しつつあることは認められる、けれども仔細に觀察すれば、同じ師管内でも不同があり、同じ聯隊區管内乃至は同じ郡内でも等差のあることを免れぬ。その原因は種々であらうが、役員の努力如何といふことが主要なる原因であることは争はれないやうである。就ては支部長聯合分會長諸君は管内の状況を詳細に承知して、振不振の原因や事情等を表裏共に十分に呑み込んで、それに適切なる指導の

方法手段を工夫攻究し、成るべく甲乙のない様に指導助勢することが取り分け大切である。

殊に未入營補充兵の簡閲點呼の状況を見るに、役員の世話の能く行届いた分會の未入營補充兵は概して成績が佳いが、豫習教育も行はない様な分會は内部の事も不整頓であるし未入營補充兵の成績も無論宜しからう譯がない、彼等に對して能く世話の行届くと否とは其結果に多大の相違を生ずるものである。即ち彼等は分會の會員となるものであるから、彼等に充分に本會の事を了解せしむるのは指導上最も必要である。若し此の了解を與へることが充分でなく、爲に指導が立派に出來ぬことになれば、それは準備の不行届の結果と云はねばならぬ。本年も愈々豫習教育の時機が迫つて來たが、就いては、壯丁教育用として屢に發行したる壯丁讀本の續編とも云ふべき『壯丁の爲に』と題する書籍を發行したから、之を以て豫習教育を施し、壯丁讀本と併せて用ゐて、壯丁に必要な知識を一通り會得せしむる様に勉められたい。又未入營補充

兵の爲め「未入營補充兵のしるべ」を讀ませることを勉められるやうに希望する。而して豫習教育は入營者も未入營補充兵も同時に施行すべきものである。即ち未入營補充兵は一朝有時の際は一人前の軍人として起たねばならぬ任務を有つて居るのであるから、同時に教育すべきもので、これを各別に施すのはいけない。就中、未入營補充兵の豫習教育に就ては今後一層の努力を加へねばならぬと思ふ。

兎角日本人は讀書の習慣が乏しくて困るが、併し分會の役員諸君は必要なる參考の書類は自分も之を熟讀し、會員にも能く熟讀せしむるやう世話されなければならぬ。これが、趣旨の徹底を期する適切な方法である。又「壯丁の爲に」は入營者の爲のみならず、國民皆兵の精神を徹底せしむる爲に、一般青年にも讀ましむる目的で書いたのであるから青年團の指導者と相談して青年にも讀ましむる方法を講せられたい。かやうな趣旨で書いたのであるから、従つて内容にも自ら特色がある。この書は未入營補充兵にも青年にも、兩方の頭に入れて置くの必要がある。

次に今回本部では陸軍唯尉制度の制定並に下士志願者の心得及海軍志願者に關する印刷物を町村長分會長諸君に配布することにしたが、此准尉制度は下士優遇の精神で、下士の進路を開いて物質並に名譽の上から獎勵を加へられたもので、下士の前途は頗る有望である。けれども世間にはどうも此等の事が知られて居らぬから、之を知らしむる爲に今度多額の費用と手數とをかけて印刷に附し、普く配布するのであるから、役員諸君は能く之を讀まれて、此の趣旨が充分に徹底するやうに御盡力を希望する。出來得れば各組合又は班毎に一部位宛備付けるやうに致したいと思ふ。而して毎年入營者は勿論其父兄達に説明して聞かせるのは大いに必要なことで、同時に之が會員としての義務であらうと思ふ。此機會に於て諸君に御勸め致したいは學齡兒童の世話である。即ち小供が學齡に達したならば、就學の手續を分會員諸君が世話することである。何でもないことでも、一般の人には一寸面倒であるかも知れぬから、班毎に又は組合毎に其世話をしてやるやうにすれば大した面倒でもなくて、多大の便宜を與

へるのであるから御配慮をお願い致したい。

青年團は内務文部兩大臣訓示の趣旨にて漸次に成立しつゝあるのであるが、これに就ては第一に在郷軍人の子弟が、其青年團中の模範青年と云はるゝやうにならなければならぬ。會員諸君自らが先づ此の意氣込みでなければならぬ。私が在郷軍人會の世話すると同時に、近來青年團中央部の常務理事として青年團の爲に聊か努力するのは、在郷軍人會と青年團とか兄弟同様の關係で離るゝことの出來ぬ譯合のものであるからである。

先日私は或人よりの投書に接した。多分廣島縣の人と思ふが、近來米國に移住する爲に必任義務の精神に戻り、國民として甚だ恥づべき行爲を敢てして一種の徵兵忌避を行ふものがあるといふことに就て親切なる手紙を頂戴したのであるが、此事に付ては實は我々も能く氣が注いで居る。自己の處世上の利益を圖る爲に、法網を潜つて兵役を免れんとするの不都合千萬なる事は夙に氣が注いで居るのであるから、それが取

締方法に就ては何れ遠からざる内に、定めらるゝことと信ずる。此事に關して能く御注意下さる好意は深く感謝する所である。

昨年は近年稀有の風水害で、言語に絶えたる慘狀を呈したる地方もあり、會員諸君中にはこの慘害を被られた方もあらう、誠に同情に堪へぬ所であるが、此機會に於て在郷軍人諸君が斯かる場合に相互の爲に救援し合ふばかりでなく、率先して公共の爲に盡すの心懸けを有つて居らるゝ事が實際的に了解されて、地方當局者も多大の感謝を表して居らるゝやうである。今回の如き場合は、躊躇することなく、敏活に且つ誠實に公益に盡すことが必要であるから平生から能くかゝる場合に處するの準備を整へて置くことが肝要であらう。只一時の思付きではなく平生から計畫を立て、何時でも狼狽せずに變に應ずることの出來る如くに用意して置くやうに致したいものである之に就て切に希望するのは、聯合分會長諸君が今少し立入つて、踏み込んで郡内分會を一層發展せしめ、齊一ならしむることである。即ち能く郡長の意を受けて町村長

や分會長や郡視學の方々と連絡をとつて督勵することである。これは各自の自覺を待つべき事柄ではない、飽くまでも進んで督勵し、各自の自覺を促すやうに仕向けるのが肝要である。各幹部諸君、就中聯合分會長諸君は是非此の意氣込みを以て一層積極的に努力あらんことを切望に堪へぬ。

帝國の使命と青年の覺悟終

大正七年十一月廿四日印
大正七年十一月廿八日發

刷行

帝國の使命と青年の覺悟

定價金壹圓五拾錢

不許
複製

述者 田中義一
編輯者 野中正
發行者 東京市神田區錦町一丁目十九番地 小川菊松
發賣者 東京市京橋區築地二丁目三十番地 川崎佐吉
印刷者 川崎佐吉

發行所

東京市神田區錦町一丁目十九番地
電話神二六一〇振替東京六二九四番

誠文堂書店

所刷印 川崎 所刷印 東京市京橋區築地二丁目三十番地

縮刷名著文庫

澁川立耳君著
 袖珍 合册
 野十 日本と世界見物
 澁川立耳君著
 好評 三版
 日露 戰役從軍三年
 澁川立耳君著
 好評 三版
 日獨 戰役小敵大敵
 野 涼兵衛著
 再版
 東京史蹟見物
 夏目漱石君 杉村楚人冠君 烏井素川君 澁川立耳君 序 米窪太刀雄君著
 二十版

日本と世界見物

從軍三年

小敵大敵

東京史蹟見物

海のロマンス

三五版約一千頁
 定價金一圓六拾錢
 郵税金八錢

三五版六百餘頁
 定價金一圓廿錢
 送料金六錢

三五版三百八十頁
 定價金一圓
 送料金六錢

縮刷版四百頁
 定價金一圓十錢
 送料八錢

三五版六百卅頁
 定價金一圓卅錢
 郵税金八錢

發行所 東京市神田區錦町一丁目 澁川立耳君著
 電話 〇一六二六 番四九二
 誠文堂

縮刷名著文庫

米窪太刀雄君著 藤澤龍雄氏裝幀
 再版 縮刷
 船と人
 米窪太刀雄君著 藤澤龍雄君裝幀
 再版 縮刷
 マドロスの悲哀
 理學博士 横山又次郎著
 五版 縮刷
 きしら自然界の現象
 法學博士 浮田和民君著
 第三版 縮刷
 新國道德と修養

船と人

マドロスの悲哀

自然界の現象

新國道德と修養

縮刷版四百廿頁
 定價金一圓八錢
 郵税金八錢

縮刷版三百五十頁
 定價金一圓八錢
 郵税金八錢

縮刷版三百六十頁
 定價金一圓八錢
 郵税金八錢

縮刷版五百頁
 定價金一圓八錢
 郵税金八錢

發行所 東京市神田區錦町一丁目 澁川立耳君著
 電話 〇一六二六 番四九二
 誠文堂

誠文堂發行書目

澁川玄耳君著 訂正 六版 古訓原文 三體古事記	澁川玄耳君著 改訂 五版 日本 古事記 神典 古事 記 晰	澁川玄耳君著 改訂 三版 古事記 繪ばなし 日本の神様	好評 三版 文選 故郷 他郷	熊田葦城君著 第二版 江戸 懷古 錄
菊判約五百頁 洋裝一函五十五錢 定價金一圓八十錢	四六版三百餘頁 洋裝一函四十八錢 定價金一圓八十錢	四六倍大型二百餘頁 洋裝一函八十八錢 定價金一圓八十錢	四六版四百餘頁 洋裝一函八十八錢 定價金一圓八十錢	四六版三百六十頁 洋裝一函八十八錢 定價金一圓八十錢

東京市神田區一丁目一〇番
電話 四九二六
誠文堂發行所

誠文堂發行書目

大日本雄辯研究會編 第九版 弔祭 式辭答辭挨拶	大日本雄辯學會編 第五版 弔祭 演說と文章	東京日々新聞社主催 再版 東京各 大學選出 學生雄辯集	日本蓄音器商會承認 增補 九版 本日 蓄音器文句全集	加藤美倫君著 第十版 比較 研究廿 大強健 法
四六版三百六十頁 洋裝一函八十八錢 定價金一圓八十錢	四六版四百餘頁 洋裝一函八十八錢 定價金一圓八十錢	四六版百六十頁 洋裝一函四十四錢 定價金一圓八十錢	四六版一冊一千五百頁 洋裝一函八十五錢 定價金一圓八十錢	四六版三百二十頁 洋裝一冊二百八十錢 定價金一圓八十錢

東京市神田區一丁目一〇番
電話 四九二六
誠文堂發行所

縮刷名著文庫

<p>第九版 熊田華城著 縮刷 日蓮上人</p>	<p>第三版 大日蓮十大法門 志田鉾太郎著</p>	<p>第三版 和譯註解 妙法蓮華經 佛教普及會編修</p>	<p>第三版 福澤諭吉著 福翁漫言</p>
<p>縮刷版六百五十頁 定價金一圓卅錢 送料金八錢</p>	<p>縮刷版六百卅頁 定價金一圓八錢 送料金八錢</p>	<p>縮刷版六百餘頁 定價金一圓八錢 送料金八錢</p>	<p>縮刷版六百卅頁 定價金一圓八錢 送料金八錢</p>

發行所 東京市神田區錦町一丁目
電話 〇一六二六
番 〇四九二六
誠文堂

誠文堂發行書目

<p>大町桂月君校訂 第五版 集成模範書簡文講話</p>	<p>丹野吉五郎君著 第三版 講話模範商用書簡文</p>	<p>井無知子著 再版 學力は文章から 附東京市內各小學兒童文集</p>	<p>岩田鳥山君著 第十版 新體美文字紙文庫</p>	<p>金子董園著 三版 歌に入る道</p>
<p>四六版約六百頁 定價金一圓八錢 送料金八錢</p>	<p>四六版約六百頁 定價金一圓八錢 送料金八錢</p>	<p>四六版四百五十頁 定價金六十五錢 送料金六錢</p>	<p>三六版六百餘頁 定價金一圓八錢 送料金八錢</p>	<p>四六版二百六十頁 定價金七十八錢 送料金八錢</p>

發行所 東京市神田區錦町一丁目
電話 〇一六二六
番 〇四九二六
誠文堂

誠文堂發行書目

蘆版三第 蘆版三第 蘆版三第 蘆版三第 蘆版三第 蘆版三第 蘆版三第 蘆版三第

川忠雄君著

金錢活用法

川忠雄君著

善言一日一訓

川忠雄君著

能率時間の活用

悅孝子著

貯金の模範生活法

田曙山君著

趣味と四季の園藝

四六版二百七十頁
洋裝金九十八美
送料金八十美
錢錢本

菊半截三百八十美
郵定價金七十八美
錢錢本

四六版二百七十美
洋裝金六十五美
郵定價金八十五美
錢錢本

四六版三百二十美
郵定價金九十五美
錢錢本

三版五函六美百
郵定價金八十五美
錢錢本

發行所

東京電振
市話東
神田東
區田東
錦田東
一丁一六二六
目番四九二六

誠文堂

誠文堂發行書目

福本日南君著

大石内藏之助

大石會會長男爵 安場末吉君著

再版 武士道の權化 快傑内藏之助

東京旅行案内社編

六版 四季 日本名勝案内

日本温泉案内社編

十一版 保養 日本温泉案内

菊製判約三美百
郵定價金八十五美
錢錢本

四六版約三百五十美
郵定價金八十五美
錢錢本

三版百二十美
郵定價金七十五美
錢錢本

三版六美百
郵定價金八十五美
錢錢本

發行所

東京電振
市話東
神田東
區田東
錦田東
一丁一六二六
目番四九二六

誠文堂

誠文堂發行書目

故稻川雲溪君編書 第五版 眞行書法詳解 玉木愛石君書 小野鍾山君編 定價 稅金 八圓廿二錢	第六版 書道講話 玉木愛石君書 小野鍾山君編 特稅 稅金 十二圓七十錢	第五版 習字草書秘訣 兼用字 浦浩東君編書 半紙刷和裝仕立 定價 稅金 七十錢	第三版 ペン三體千字文 附書法 浦浩東君著 四六版洋裝上製 定價 稅金 八十五錢	第三版 日本文字ペン習字法及手本 浦浩東君著 細長版手本形 定價 稅金 四十五錢
---	--	--	---	--

東電 市話 田神 區田 町一 丁一 目番 〇一 番番 四九 二六 誠文堂 發行所

誠文堂發行書目

四博士校訂及監修十學士編著 ▲內容見本進呈▼ 新刊 詳解電氣大辭書 先編 定價 稅金 廿八圓	再增訂勝 新刊 最新工業化學便覽 故夏目漱石原著 國際通信社長ケネヂー氏閱、毛利八太郎譯 送定價 稅金 六圓	新刊 英坊っちゃん 故尾崎紅葉原著 故アロイド英譯 送定價 稅金 八圓	第五版 英譯金色夜叉 德富蘆花原著 鹽谷榮譯 送定價 稅金 八圓	第十版 縮刷莫譯不如歸 送定價 稅金 四圓
--	--	--	---	-----------------------------

東電 市話 田神 區田 町一 丁一 目番 〇一 番番 四九 二六 誠文堂 發行所

IT6L48

電氣器具製作叢書 通俗

大日本電氣研究會編著

誰にも出来る
小型發電機製作及取扱法

四六版上製美本
定價一圓廿錢
送料金八錢

誰にも出来る
實用電氣玩具の製作法

四六版上製美本
定價一圓五十錢
送料金八錢

誰にも出来る
小型交流變壓器の製作附取扱法

四六版上製美本
定價金七十錢
送料金六錢

誰にも出来る
乾電池及濕電池の製作附取扱法

四六版上製美本
定價金八十五錢
送料金六錢

誰にも出来る
蓄電池及充電器の製作附取扱法

四六版上製美本
定價一圓卅五錢
送料金八錢

發行所

東京市神田區錦町一丁目
電話四九二六番

誠文堂

終

